

改訂版

町内会活動のヒント



札幌市

はじめに

札幌市内には、2,209の町内会・自治会があり、地域のまちづくりに欠かすことのできない活動主体として、地域住民の福祉の向上や地域コミュニティの形成といった重要な役割を担っています。

「自分たちのまちを住みよくしていきたい。」という思いのもと、地域でご活躍されている方々には、深く敬意を表するとともに、深く感謝申し上げる次第です。

しかしながら、多くの地域では、まちづくり活動を行う上でさまざまな課題を抱えているほか、他の地域の事例を共有する機会も限られていることから、平成22（2010）年に町内会・自治会の課題を解決する一助となるよう冊子『町内会活動のヒント』を作成しました。

札幌市では、これまで右肩上がりであった人口が平成27年（2015年）をピークに減少に転じる見込みであるほか、平均寿命の伸びや出生率の低下に伴う少子高齢化の急速な進行により、平成37（2025）年には高齢化率が30.5%まで上昇し、概ね8世帯に1世帯が高齢単身世帯になる見込みです。このように札幌市の町内会・自治会を取り巻く環境は大きな転換期を迎えようとしているほか、平成23年3月11日の東日本大震災を契機として地域の絆が見直されており、高齢者や子どもの見守り、防犯・防災といった観点からも、町内会・自治会の重要性はますます高まっています。

一方、町内会加入率は年々低下傾向にあり、役員の固定化・高齢化、担い手不足といった課題が顕在化しています。このたび、こうした「町内会加入促進」と「町内会の担い手確保」という二つの大きなテーマに着目し、町内会・自治会における課題の解決や活動及び運営の更なる取組に活用いただくため、平成22（2010）年に作成した『町内会活動のヒント』を改訂しました。

なお、本冊子の作成にあたっては、町内会・自治会の会長や役員の皆さまにワークショップへの参加やインタビューなどを通して多大なるご協力をいただきました。本冊子には町内会・自治会活動の活性化に向けたさまざまな工夫やアイデア、参考事例のほか、こうした皆様の強い想いがたくさん詰められています。このような具体的な取組手法は、町内会・自治会活動の活性化に向けて取り組む皆様の背中を押してくれることでしょう。

本冊子の中から、自分たちの地域に応じた活動のヒントを見つけていただき、地域の発展につなげていただければ幸いです。

札幌市長

上田文雄

目次

1	「町内会活動のヒント」について	1
2	札幌市及び町内会・自治会の現状	3
	(1) 札幌市の現状	3
	(2) 町内会・自治会の現状	4
3	町内会・自治会を取り巻く環境変化と課題	7
	(1) 町内会・自治会を取り巻く環境の変化	7
	(2) 町内会活動における課題	9
4	町内会・自治会の円滑な運営と活性化のためのヒント	11
	(1) 町内会活動の活性化に向けて	11
	(2) 加入促進に向けたヒント	13
	①町内会の存在を知ってもらう、役割や活動を理解してもらう取組	13
	②気軽に参加してもらうための仕掛けづくり	17
	③学生や若い世代に対する取組	19
	④子どもや子育て世代に対する取組	20
	⑤賃貸集合住宅に対する取組	21
	⑥効果的な勧誘、集中的な加入促進の取組	22
	⑦ライフスタイルに合わせた取組	25
	(3) 活動の担い手を確保するヒント	26
	①町内会活動に関わるきっかけづくり	26
	②若者・現役世代が参加しやすい環境づくり	31
	③他組織との連携で人材不足を補う	33
	(4) 役員の担い手を確保するヒント	34
	①負担を感じさせない配慮と任期の明確化	34
	②勧誘活動の工夫	36
	(5) 町内会活動の見直しのポイント	37
	①規約や事業の定期的な見直し	37
	②活動の改善分析と検討	38
	③会議の運営方法の工夫	39
5	活動する上で連携している団体	41
6	町内会で活動するという事	45
	参考・資料編	56
	・ 町内会・自治会を設立するには	58
	・ 地縁による団体の認可	78
	・ 活動の改善・分析シート	82
	・ 各種チラシの例	86
	・ 市の担当窓口	92

町内会・自治会は、地域の防災や防犯、子どもの安心・安全など地域の課題に対して、その存在や役割が見直されています。

しかし、社会情勢や、個人のライフスタイル、価値観の変化などに伴い、多くの地域では町内会・自治会に対する関心の希薄化などから、町内会加入率の低下や町内会活動の担い手の不足などが深刻な課題となっています。

そのような中、町内会・自治会の中には、さまざまな工夫や取組を通して積極的に町内会の加入促進や担い手の確保に取り組んでいる地域があります。

本冊子は、「町内会加入促進」や「担い手確保」に関する地域の取組とノウハウを広め、これから取組を始める地域や、既に取組を進めている地域に、これらのアイデアを参考としながら取り入れていただき、更なる活動の展開や地域の活性化につなげてもらうことを目的としています。

「町内会活動のヒント」の目的

- さまざまな地域で取り組まれているノウハウやアイデアを広く知ってもらう。
- 自らの町内会・自治会における活動や取組にアイデア等を参考にしながら取り入れ、活動を活性化してもらう。

■ 「町内会活動のヒント」ができるまで

『町内会活動のヒント』は、平成 21 年度に行った町内会長ワークショップ、インタビュー、アンケート等を基に作成しましたが、情報の更新や新しい取組を紹介するため、平成 25 年度に改訂作業を実施しました。改訂にあたっては、町内会役員の方々に参加していただいたワークショップやインタビュー等を通じて、たくさんの町内会関係者の皆さまのご協力をいただきました。

特に、全 3 回に渡り開催したワークショップでは、「町内会加入促進」と「町内会活動の担い手」という 2 つの大きなテーマを中心に、現状や課題、また、その課題に対して行っている取組や新たに行いたい取組のアイデアなどを話し合ってもらい、多くのヒントをいただきました。

また、ワークショップには市内の大学生にも参加してもらい、若い世代の視点から見た町内会の印象や若い世代に向けた情報発信の在り方、若い世代が出来ることなど、斬新なアイデアをいただきました。

■ 「町内会活動のヒント」改訂に係るワークショップ

参加していただいた方(順不同、敬称略、団体及び役職名は作成時のもの)

牧野 正昭		円山西町町内会 会長
五十嵐 秀子		幌北連合町内会 副会長兼女性部長、幌北第一町内会 副会長兼女性部長
本村 良一		元町連合町内会 会長、元町一区町内会 会長
中澤 旭也		白石地区連合町内会 会長、コープ野村南郷町内会 会長
松山 瑞穂		厚別中央町内会連合会 総務部長、下野幌町内会 会長
木戸 敏男		中の島地区町内会連合会 会長、中の島二区第1町内会 会長
大形 修三		里塚・美しが丘地区町内会連合会 会長、パシフィック美しが丘壱番街自治会 会長
村上 剛		川沿中央第五町内会 会長
河崎 快二		二十四軒連合町内会 会長
眞鍋 秀夫		夢トピア星置町内会連合会 会長

検討テーマ

第1回(平成25年9月17日)

- ・町内会加入促進について
- ・町内会活動の担い手について

第2回(平成25年10月23日)

- ・未加入者に対する取組
- ・加入促進につながるために必要な町内会内部の取組

第3回(平成25年12月3日)

- ・町内会活動の担い手と役員の担い手の発掘・育成



参加していただいた学生(順不同、敬称略、大学名は作成時のもの)

工藤 和希、竹久 美佳、八代 理沙、西潟 健太、桂 琴美(北海道大学)
 竹生 秋穂(藤女子大学) 丸藤 健悟(酪農学園大学)

2 札幌市及び町内会・自治会の現状

(1) 札幌市の現状

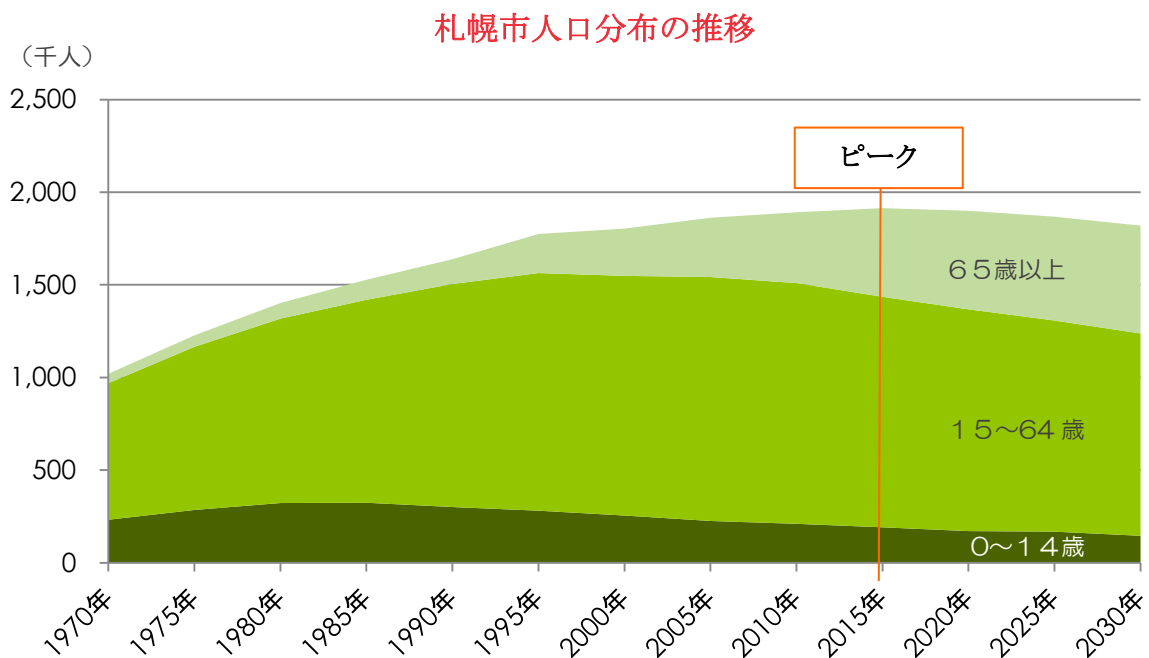
札幌市では、昭和30年代の高度経済成長を背景に人口が急増し、昭和45年には初めて人口が100万人を超えました。以降、人口は増加の一途をたどり、平成26年には193万人（平成26年2月現在）の大都市となりました。

一方、全国的な社会構造の変化と同様に、札幌市においても少子高齢化が進み、平成27年前後をピークに人口が減少傾向に転じると予測されています。

人口減少・少子高齢化の進行に伴って、高齢単身世帯の増加といった懸念も顕著になり、子どもや高齢者を地域全体で支えあう環境の必要性が高まっています。

また、東日本大震災をきっかけとして、社会情勢の変化から市民の価値観やライフスタイルも多様化してきています。

このような背景から、将来的な人口減少・超高齢社会を見据えた、地域が主体となるまちづくりが求められています。



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

(2) 町内会・自治会の現状

■町内会・自治会の加入状況について

現在、札幌市内には、単位町内会 2,209 団体、それらが集まって形成される連合町内会が 90 団体あります。

町内会・自治会の加入世帯は、一貫して増加傾向にあるものの、総世帯数の増加がそれを上回っているために、加入率は年々低下傾向にあり平成 26 年 1 月 1 日現在では 70.48%となっています。

区別の状況を見ると、南区や手稲区の加入率は比較的高く、中央区や白石区では比較的低い加入率となっています。

札幌市内町内会の加入状況（平成 26 年 1 月 1 日現在）

単位町内会	連合町内会	全市加入率	加入世帯数	総世帯数
2,209 団体	90 団体	70.48%	651,206 世帯	923,955 世帯

町内会加入率が低くなると、運営費が減少することで一定規模を超える事業の実施が困難になるなど、活動の縮小が懸念されます。また、地域住民への情報伝達や共有が困難になります。一方、加入率が高まると、町内会の財政基盤が強化されるとともに、新たな担い手の増加にもつながり、良好な運営が可能となります。

今後、地域ごとに加入世帯数を増やし、町内会・自治会の円滑な運営や地域コミュニティの醸成につなげていくことが求められています。

町内会加入率の変化の影響

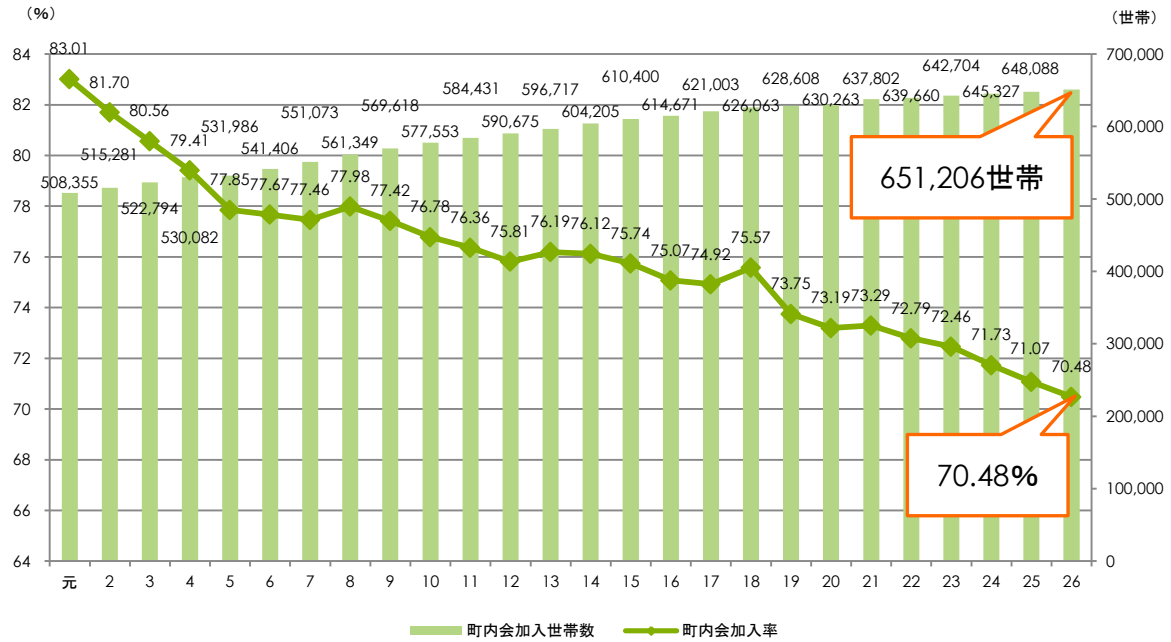
○町内会加入率が低下すると…

- ・町内会の情報の伝達・共有が困難
- ・町内会の運営費の減少、それに伴う活動の縮小
- ・町内会役員の負担増
- ・イベント参加者の減少
- ・加入者・未加入者による不公平感の増大

○町内会加入率が高まると…

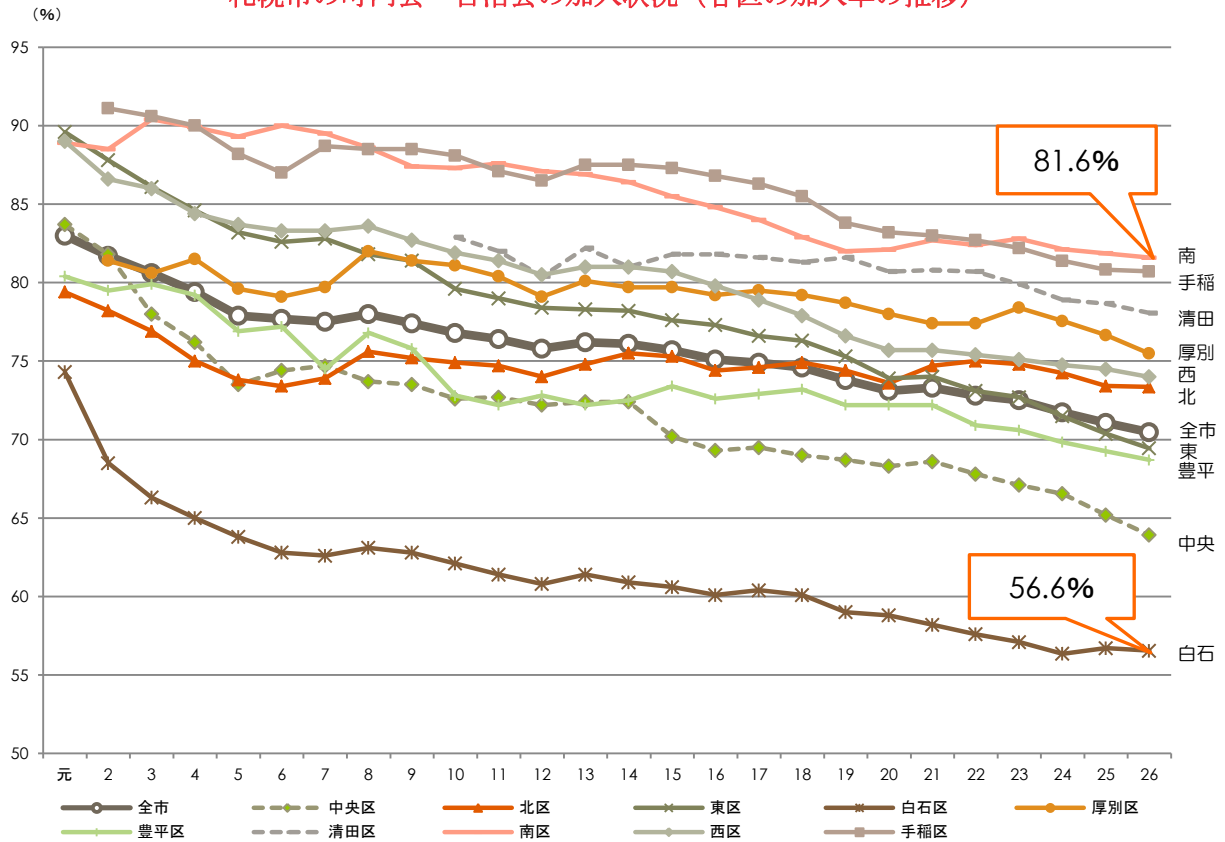
- ・地域を網羅する顔の見える関係が構築されることによる安心安全な暮らし
- ・町内会役員・担い手の増加
- ・町内会の財政基盤の強化、新たな取組などの可能性が広がる

札幌市の町内会・自治会の加入状況（加入世帯数及び加入率）



出典：札幌市

札幌市の町内会・自治会の加入状況（各区の加入率の推移）



出典：札幌市

■町内会の担い手について

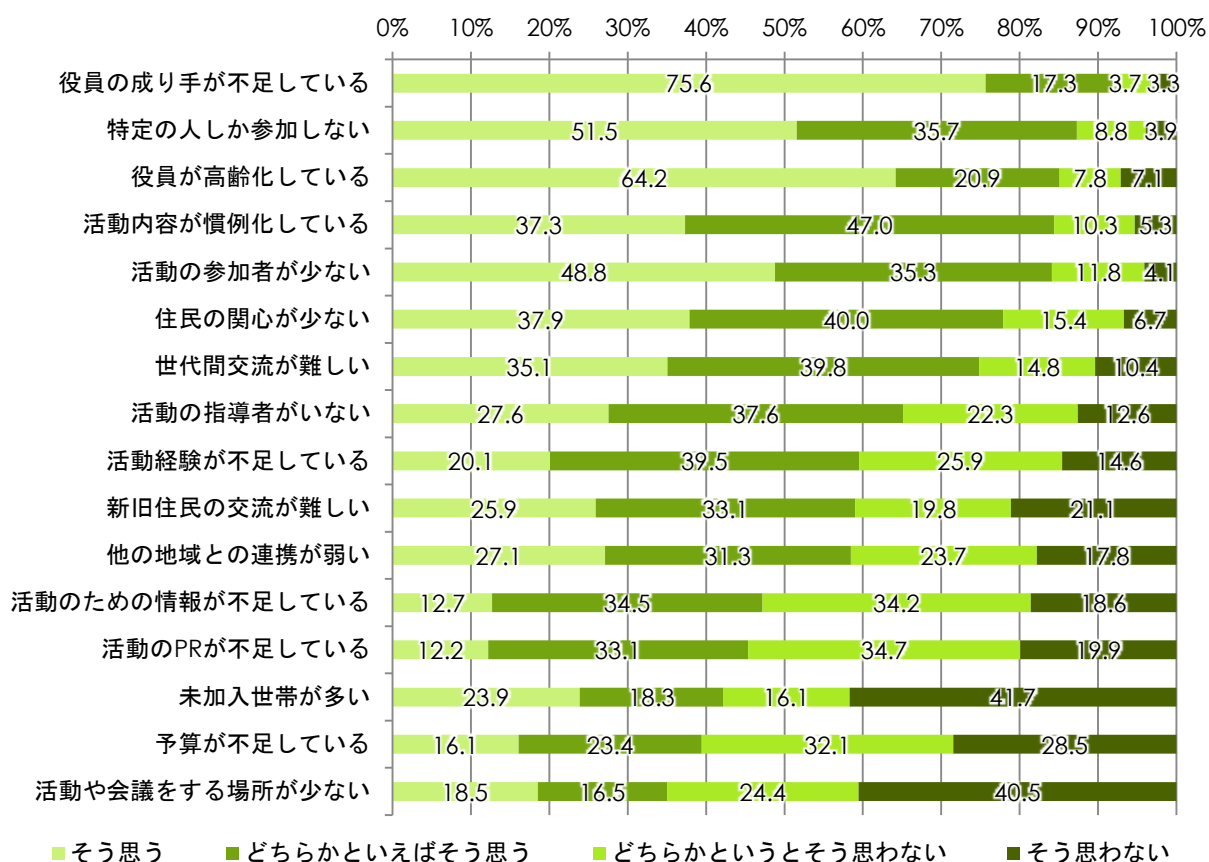
町内会・自治会では町内会加入率の低下に加え、役員が固定化・高齢化していることや活動の担い手がいないといった課題が顕在化してきています。

町内会・自治会に関するアンケート調査結果（平成22年3月）における「町内会の活動を行っていくうえで、課題となっていることはどのようなことであるか」という設問の回答結果に、「役員の高齢化」、「役員の成り手がいない」ということが課題として多く挙げられています。加えて、活動に対する参加者が少なく、活動の担い手が不足するという懸念も見られます。

こうした課題は、役員の負担増や活動内容のマンネリ化にもつながっている可能性があります。町内会・自治会の運営において、今後の活動の活発化、さらには組織の存続にも大きくかかわる担い手確保に向けた取組が求められています。

町内会・自治会に関するアンケート調査結果

「町内会の活動を行っていくうえで、課題となっていることはどのようなことであるか」



ワークショップから

- ・町内会の役員は70代の人が多く、高齢化しており、固定化している。役員をどうやって見つけていくかが大きな課題になっている。
- ・現役世代は、仕事で時間がなかったり負担が多かったりして参加してもらうことが難しい。

3 町内会・自治会を取り巻く環境変化と課題

(1) 町内会・自治会を取り巻く環境の変化

町内会・自治会における「加入率の低下」や「担い手不足」の背景として、町内会を取り巻く環境の変化があります。

かつて町内会が担ってきた役割の一つに葬儀があります。町内で亡くなった方がいると、町内会長が葬儀委員長となり、町内会が葬儀を主催するケースが見られました。こうした葬儀の形式は大きく変化しており、このようなことをはじめとして、町内会・自治会はかつての役割から大きく変わってきています。

また、住環境や生活スタイルの変化によって町内会活動における住民との接触機会が少なくなったり、住民ニーズが把握しにくくなったりしています。個人情報の取扱いが厳格になったことにより、地域で暮らす住民の顔が見えづらくなっている面もあります。



■ 環境変化の主な要因

町内会・自治会を取り巻く環境の変化の主な要因

● 暮らしの中の必要不可欠性の変化

- ・ 葬儀形式の変化など、隣人同士が支え合わなければならない機会が減少しています。
- ・ 除雪や防犯などの日常の暮らしに必要なことが民間に委託されるなど町内会に求められる役割が変化しています。

● 住環境や生活スタイルの変化

- ・ マンションやアパートの増加により、互いに顔が見えにくい住環境となっているほか、住民の生活スタイルが変化しています。
- ・ 若者世代や単身世帯の流入が増え、コミュニケーションをとる方法の多様化が進んでいます。

● 大人と子どもの接点の減少

- ・ 日常における大人と子どもの接点が減少しています。

● 個人情報の取扱いの厳格化

- ・ 住人の名前・住所・家族構成などを把握しにくい時代になっています。

■町内会・自治会の役割と重要性の再認識

人口減少・少子高齢化の進行に加え、東日本大震災等の災害をきっかけとして地域の絆づくりの重要性が高まっています。

さらには、子どもの見守りや高齢者の孤独死なども大きな社会問題になっています。これらのことからわかるように、地域における顔のわかる関係や絆づくりが、より一層重要となっており、町内会・自治会の役割と重要性が再認識されています。

(2) 町内会活動における課題

町内会・自治会では、「町内会加入促進」及び「担い手確保」が大きな課題となっています。

その背景として、町内会・自治会への関心の希薄化や町内会に参加しにくいこと、また、住環境や生活スタイルの変化などに対応した住民への情報発信の難しさなどがあります。

■町内会・自治会の加入促進に関する課題（ワークショップから）

○町内会への関心が薄くなっている

社会状況の変化や市民の価値観の多様化、暮らしの利便性などにより、個々人の生活に目を向けがちな傾向があり、地域住民の町内会への関心が薄くなっており、そのために町内会に加入しない世帯が増えている。

○町内会の存在や活動が知られていない

町内会が何をやっているのかわからないなど、住民、特に若い世代に町内会の存在や活動があまり知られていない状況がある。

○住民との接点・交流が難しい

居住形態などライフスタイルが変化し、オートロックのマンションなどでは住民との接触が難しいなど、住民と接点を持ちたくても持てないことも課題となっている。また、個人情報保護の観点からも地域の住民の情報が得にくくなっている。

○新たな加入促進活動の工夫が必要

町内会を取り巻く環境が変化しており、賃貸集合住宅のみならず新たに転入してくる戸建ての住民も町内会に加入しないケースが見られる。これまでの取組に加えて、状況に対応した取組を検討していくことが求められている。

○住民ニーズと現状の活動とのギャップ

社会状況の変化により、町内会に対するニーズが変わってきており、これまでの町内会の取組や組織運営と、現在の住民のニーズやライフスタイルとの間にギャップが生じている。特に若い世代は自らのメリットがないとなかなか加入しないという傾向も見られる。

■町内会・自治会の担い手に関する課題（ワークショップから）

○活動に参加する機会が少ない

町内会に加入していても町内会費を払っているだけという住民も多く、活動に参加する顔ぶれが同じになり、幅広い世代が参加できていない。

多くの住民が町内会の活動に参加することが必要であり、そのためには年代に関わらず誰もが参加しやすい環境や仕組みが重要。

○活動できる人材がそもそも少ない

町内会は地域によって世帯数や住居形態など取り巻く環境はさまざまだが、65歳までの現役世代は活動に参加する時間的な余裕が少ない。また、大学等がある地域では学生や若い世代が多い場合もあり、担い手としての人材になりうるが、そもそも若い世代がいない地域もある。

○役員等の高齢化・固定化が進み、負担が大きい

町内会役員の高齢化や役員の担い手がいないことから、役職の兼務など特定の人負担が大きくなったり、活動のマンネリ化などにもつながる。

(1) 町内会活動の活性化に向けて

町内会・自治会の活動は、日々の暮らしの中で、ごみステーションの管理や地域防災、生活安全、さらには住民相互の親睦交流など多岐に渡っています。

また、地域で支え合いが求められている中、地域コミュニティの醸成に向けても、町内会活動は重要であり必要なものです。

町内会・自治会の活動

生活環境の向上のための活動

・環境美化／除雪・生活道路の排雪

安全で安心な暮らしを守るための活動

・防犯／防災／交通安全

住民相互の交流を深める活動

・地域福祉／子育て支援／レクリエーション／スポーツ／文化活動

市や他団体が行う事業への協力

このようにさまざまな町内会活動がある中で、町内会・自治会の円滑な運営と活性化を促進するために、「活動・行事」、「情報発信・情報共有」、「加入促進・担い手確保」、さらには「組織・運営」の視点が重要になります。

それぞれの視点において、その取組を改善したり工夫したりすることで、円滑な運営と活性化につながります。

これらの視点は互いに関連しあっており、加入促進のための情報発信の工夫や、活動行事における改善を通して担い手確保につながる場合もあります。また、加入促進や担い手確保を進めることで組織運営の見直しなどにも関わってきます。

さまざまな視点から町内会活性化に向けて取り組むことが大切です。

活動・行事

世代など偏りがなく住民誰もが活動や行事に参加できることが求められます。

情報発信・情報共有

町内会の活動などの情報が地域住民に発信され共有されていることが求められます。

加入促進・担い手確保

町内会の意義や活動内容を共有して、加入促進や担い手確保に取り組むことが求められます。

組織・運営

社会情勢や地域特性に応じた組織体制や運営、住民ニーズの把握・対応が求められます。

■活動のヒントの見方

13 ページから 36 ページまでは、具体的な活動のヒントを紹介しています。

下表にある「課題」欄に当てはまる場合は、「ヒント」欄のページを参考に具体的な取組を検討してみましょう。

○加入促進に向けたヒント

課題	取組分類	ヒント	
町内会への関心が薄くなっている	町内会の存在を知ってもらう、役割や活動を理解してもらう取組	【P13～P16】 ・チラシや会報をひと工夫して“町内会”をアピール ・未加入者にも町内会がつくる資料を配布 ・活動参加者・応募者へお礼状を送付 ・活動の見える化で町内会の存在をアピール	
町内会の存在や活動が知られていない			
住民との接点・交流が難しい	気軽に参加してもらうための仕掛けづくり	【P17～P18】 ・会員以外の人や幅広い世代が参加できるイベントの開催 ・若い世代や他団体と協力したイベントの企画運営	
	世代、居住形態に応じた取組	学生や若い世代に対する取組	【P19】・若い世代へのPRと連携
		子どもや子育て世代に対する取組	【P20】・子育て世代の関心を惹く ・学校やPTAとの連携
新たな加入促進活動の工夫が必要	賃貸集合住宅に対する取組	【P21】・管理会社との連携	
	効果的な勧誘、集中的な加入促進の取組	【P22～P24】 ・加入促進委員会の設置 ・マニュアルの作成 ・団体への呼びかけ ・新規転入者への呼びかけ ・個人的なつながりを活用	
組織運営と現状との差異が生じている	ライフスタイルに合わせた取組	【P25】・新たな会員制度を取り入れる ・会費の徴収方法の工夫	

○担い手を確保するヒント

課題	取組分類	ヒント
活動に参加する機会が少ない	町内会活動に関わるきっかけづくり	【P26～P30】 ・会報・回覧板の活用 ・声掛けによる協力者の確保 ・さまざまなPRツールの活用 ・子どもの参加意識を育てる ・イベントを通じた参加の機会提供
活動できる人材がそもそも少ない	若者・現役世代が参加しやすい環境づくり	【P31～P32】 ・若者が参加しやすいきっかけや接点づくり ・参加を促す関係・環境づくり
	人材不足を補うヒント	【P33】・他組織との連携
役員の高齢化・固定化が進み、負担が大きい	負担を感じさせない配慮と任期の明確化	【P34～P35】・活動が負担にならないための配慮 ・役員任期について
	勧誘活動の工夫	【P36】 ・若者が役員として参加する仕組みづくり ・役員勧誘は日頃のコミュニケーションから

(2) 加入促進に向けたヒント

1 町内会の存在を知ってもらう、役割や活動を理解してもらう取組

ワークショップに参加した学生（若い世代）からは、「町内会の存在を知らない」「どんな活動を行っているかわからない」「若者は入れないのでは」という意見が多く出されました。

未加入者の加入を促すためには、まず“存在を知ってもらう”、“関心を持ってもらう”、“理解してもらう”ことからスタートする必要があります。

チラシや会報をひと工夫して“町内会”をアピール

活動のお知らせや告知の際には、会報やチラシ、お便りを使ってPRしている町内会が多いと思います。これらは最も身近な情報発信の手法として有効です。

ただし、すぐに大きな効果を生むことは難しいため、継続していくことが大切だと考えられます。「内容」「作り方」「配布の仕方」を工夫してみましょう。



例えば…

目を引く見せ方を心がける

- ・ 興味がわくような見出しを心がけ、文章を短くするなど中学生程度でも読めるような内容を意識する。
- ・ カラー印刷や活動の様子がわかる写真などにより、目を引くデザインを心掛ける。

町内会の役割や存在感をアピール

- ・ 町内会の存在を知ってもらうために、どのような組織なのか、どのような取組を行っているのか、町内会の必要性などを掲載する。
- ・ 意外と知られていない町内会の範囲（条丁目）や窓口の連絡先を掲載する。
- ・ 会長や役員顔写真を載せる等、活動している人の姿が見えるようにアピールする。

札幌市内 町内会の 事例

町内会の重要性や町内会加入の必要性をアピール

町内会で独自のパンフレットを作成し、町内会がごみステーションや街路灯管理を行っていることや、暮らしやすい地域づくりのためには住民相互の協力が不可欠であることなどを記載して、町内会の重要性や町内会加入の必要性をアピールしています。（元町二区町内会）

未加入者にも町内会がつくる資料を配布

未加入者は町内会の存在や活動を知らないためか、ごみステーションの使い方があまり良くない、といったことが聞かれます。ごみステーションの管理なども含めて、町内会が担っている役割や必要性を未加入者に積極的に呼び掛けていきましょう。



例えば…

加入・未加入問わず、欲しい情報を欲しい人へ届けることを心がける

- ・ 転入者には年間行事が載ったスケジュールを配り、活動内容を知ってもらう。
- ・ 町内会だよりなどの町内会広報を未加入者にも配布したり、ホームページで公開したりするなど広く周知する。
- ・ 子どもがいる世帯には、子ども向けの活動に特化したチラシを配る。
- ・ 町内会の活動や名前を入れたごみカレンダーを独自に作り、加入・未加入の区別なく配布することで、ごみ収集日のお知らせはもちろん、町内会の活動や役割をPRする。

札幌市内 町内会の 事例

未加入者へも積極的に情報提供

会員以外への情報発信も大切だと考え、町内会の連絡先を掲載した加入促進に関するチラシを全戸配布しました。そのおかげか、加入を希望する声をいただきました。(円山西町町内会)

学生の 意見

大学関係機関・業者と連携した情報発信を行う！

学生はサークル活動や講義を通じて情報を得る機会がよくあります。サークルを介して情報提供したり、教材の販売先と連携したりして、教材と一緒にチラシを挟み込んでおけば学生も見ることが増えると思います。

コラム

加入者・未加入者にとらわれない地域の絆づくり（北区麻生地区）

地域の絆や住民同士のつながりは、加入・未加入にかかわらないものとして、町内会の行事をお知らせする情報誌「あさぶ」を全戸に配布したり、独自のごみカレンダーを作成し、マンション・アパートなどの未加入者に配布したりして、町内会の存在や活動を知ってもらうようにしています。

活動参加者・応募者へお礼状を送付

人に感謝されたり、ありがとうと言われたりするとなんだか嬉しいものです。そんな仰々しいお礼でなくとも、一言二言を町内会の活動に参加した方へ送ると「活動に参加してよかった」と思ってくれるのではないのでしょうか。

ちょっとした気配りで、身近に感じたり、加入につながったり、さらには活動のリピーターになってくれるかもしれません。



例えば…

協力してくれた人にお礼状を送る

- ・ イベントの申込書や受付簿に、住所やファクス番号を記入する欄を設け、イベント終了後、参加者に「はがき」や「ファクス」でお礼を出す。
- ・ お礼と一緒に町内会長や役員の顔写真や名前、町内会名と範囲などを記載する。

札幌市内
町内会の
事例

お礼状でつながりづくり

子育てイベントなどには、普段の取組ではなかなか参加していただけない若いお母さんが参加してくれます。受付時に住所やファクス番号を記入してもらい、必ずお礼状を出すことにしています。大変ですが、その後の活動への参加につながっています。(幌北連合町内会)

活動の見える化で町内会の存在をアピール

地域の盆踊りやお祭りには、子どもから大人まで幅広い方がたくさん集まるので、普段、町内会活動に参加していない方に町内会の存在をアピールする絶好の機会です。

お祭りやイベントに「町内会PRブース」を設置してPRすることで、未加入者が町内会について知るきっかけとなっている町内会もあります。

また、町内会活動を日常的にPRして“見える化”することも大切です。イベントなども含めてさまざまな機会積極的に町内会の存在や活動をアピールしましょう。



例えば…

町内会 PR ブースにパンフレットや相談窓口を設置

- ・ イベント時に「町内会PRブース」を設置して、町内会のチラシやパンフレットなどを配布する。
- ・ 町内会長の顔と名前、所属範囲の町内会エリアなどが入ったチラシを配布する。
- ・ 地域の困りごとを聞く相談窓口をPRブース内に設置する。

町内会共通のジャンパーなどで見える化

- ・ 町内会以外にも、企業やNPO等さまざまな地域活動団体が清掃などのボランティア活動を行っている。町内会の活動であることを住民に知ってもらうため、清掃活動や除雪作業の時などに、町内会共通の「腕章」や「ジャンパー」を身につけるなど、日頃から町内会活動を“見える化”するよう心掛ける。

学生の意見

町内会の活動や皆さんの想いが分かれば、もっと興味を持てるはず！

町内会の情報は、学生など若い世代のもとにはなかなか届いておらず、活動自体を知らなかったり、やってもらうことが当たり前だと思ったりしている学生も多いと思います。特にごみや除排雪のことは、ぜんぶ市がやっていると思っていました。もっと「暮らしに身近でとても大切な存在だよ！」とPRした方がいいと思いました。

2 気軽に参加してもらうための仕掛けづくり

加入者・未加入者に限らず、地域の皆さんに気軽に参加してもらう場や機会、仕組みをつくると良いでしょう。町内会の存在を知ってもらう、関心を持ってもらうことにもつながります。

各町内会には、地域に根づいた参加の場がいくつかあると思います。若い世代の力も借りつつ、ちょっとひと工夫して、気軽な参加の場を増やしていきましょう。

会員以外の人や幅広い世代が参加できるイベントの開催

地域のお祭りや盆踊りなど子どもや高齢者だけでなく、親も含めた幅広い世代が参加できるような仕掛けを行うと、たくさんの方が集まる可能性が高まり、それだけ町内会PRの機会が増えることになります。

また、単独でイベントを企画するよりも、多様な世代が参加できるよう複数の団体や事業を組み合わせると、より参加機会を高めることができるかもしれません。



例えば…

体験をテーマにしたイベントを企画する

- ・ まち歩きウォーキングなど、子どもと親、若い世代と一緒に参加して楽しめる仕掛けを考える。
- ・ はじめての参加者同士が打ち解けあうには、話すだけより何かを一緒に作りながらだとコミュニケーションが取りやすくなる。おいしい食事を一緒につくる、農作業と一緒に体験する、などがポイント。
- ・ イベント内容に子どもが楽しめる要素があると、親やおじいちゃんおばあちゃんも一緒に参加するため、町内会PRの幅が広がる。
- ・ 高齢者の見守りや災害時の避難経路といった防災や福祉を考慮したマップをつくる活動を行うと効果的。

札幌市内
町内会の
事例

食育イベントの実施

「食育イベント」をPTAと一緒に企画して実施することで、町内会活動に普段参加しない方も参加してくれて、町内会活動への参加のきっかけとなっています。(幌北連合町内会)

他都市の取組

サロン開催による外出のきっかけづくりから加入促進へ（東京都八王子市）

地域の方が気軽に立ち寄りお茶を飲める場として、団地内のフロアにサロンを開設しています。これをきっかけに、自治会への加入はもちろん、各種イベントの企画や活動への参加へと発展し、加入率も増加したそうです。

若い世代や他団体と協力したイベントの企画運営

学生など若い世代に企画から運営まで全てを任せるイベントを行ってみたい、と考える町内会長さんもいます。

イベントの企画運営の協力者は外部の人でも良いといった考えもあり、若い世代も参加しやすい行事が開催されることで、結果的に加入のきっかけとなる可能性があります。



例えば…

イベントの企画段階から若者などに参加してもらう

- ・ 学生や若者に企画段階から参加してもらうことで、若者の地域への愛着、新しいアイデアが生まれ参加者の拡大にもつながる。
- ・ PTAや地域の子ども会と連携して企画して、子どもから大人まで幅広く交流する機会づくりのアイデア出しを行う。

学生の意見

参加対象者に近い人が企画運営すると面白いものができそう！

学生や若者など外部の人が始めたイベントと連携して、町内会活動に組み込むことで、新しい参加者を発掘し、町内会活動に触れるきっかけになると思います。また、若い人向けの行事は若い人に運営してもらうとか、参加者に近い人が企画運営すると参加者が増えるのではないのでしょうか。

他都市の取組

朝市で交流の機会創出（福岡県北九州市）

ほとんどが戸建て住宅で構成され高齢化が進んでいた町内会で、撤退したスーパーの跡地を活用し、地域交流の場として毎週火曜日の朝に「ふれあい朝市」を開催。

また、75歳以上の一人暮らしで了解のとれた方には、見守り訪問台帳を作成し、福祉協力が訪問して暮らしの状況の記録を取っています。このような取組が理解され、町内会加入率が10%以上も上がったそうです。

3 学生や若い世代に対する取組

学生や若い世代の人たちは町内会に加入しておらず、特に一人住まいの学生は、町内会の存在を知らない人がほとんどのようです。

一方で、地域で活動したいと考える学生も増えています。町内会としても、若い世代の加入が進むことで、活動の幅が広がる可能性があります。

若い世代へのPRと連携

学生や若い世代は、町内会が行っていることやその必要性などが十分伝わっていないため、加入していないことがあります。また、何をやっているのかわからないため敷居が高く感じていることもあります。

町内会行事に気軽に参加してもらいながら町内会活動を知ってもらい、加入につなげていくことができるかもしれません。

また、特に学生においては、大学やサークルなどを通して仲間と一緒にイベントを企画することで達成感が得られるほか、町内会活動への理解が深まり、その後の加入につながります。

札幌市内
町内会の
事例

大学と連携した活動

北海道大学などの学生と一緒に『Neo-Los 幌北』という団体を組織し、イベントやまちづくり活動に学生の意見と取り入れることで、町内会活動の活性化につながっています。(幌北連合町内会)

学生の
意見

町内会への人材派遣管理

活動に参加できる若い人たちとパイプを持っている人と町内会がつながればいいと思います。例えば、学生がSNS※ページを作り、そこで町内会が求めていることを発信したり、協力者が見つかったら各町内会にお知らせしたりできるシステムなどがあればいいと思います。

他都市の取組

若者への情報発信としてフェイスブックを活用（釧路市）

若者に町内会活動を知ってもらうためのSNS※の活用として、町内会のFacebookページを作成し、総会の様子や日々の活動の様子などを情報発信しています。



※ SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）
インターネット上の交流を通して社会的ネットワーク（ソーシャル・ネットワーク）を構築するサービスのこと。代表的なSNSとして、Facebook、Twitter、LINE、Amebaなどがある。

4 子どもや子育て世代に対する取組

子育て世代に対しては、子どものイベントなどを通して町内会に加入してもらうきっかけをつくるのが考えられます。

また、子どもの頃から町内会活動に触れたり知ったりすることで、町内会が身近な存在となるとともに必要性も認識されます。このようなことも将来的な加入促進の取組として重要です。

子育て世代の関心を惹く

子育て世代へのアプローチとしては、子どもの参加を通して、町内会活動を知ってもらうことが有効です。

そのためには、子ども向けイベントの開催や、子どもにイベントの企画・運営を任せる等、子どもを巻き込んだ取組が必要となります。



学校やPTAとの連携

学校等と連携した取組は、子どもの町内会活動への参加の機会となるほか、保護者の町内会活動への理解・協力にもつながります。

また、学校やPTAなどを通じた情報提供は、町内会活動への子どもの参加意識の醸成にもつながります。



札幌市内
町内会の
事例

PTAと連携したイベント参加と子育て世代の加入促進

町内会行事の際にPTAと連携して、子どもたちによさこいの演舞に出演してもらっています。そうすることで子どものほか親世代も行事を見に来てくれるので、町内会の活動を知ってもらう機会にしています。(元町一区町内会)

5 賃貸集合住宅に対する取組

賃貸のマンション・アパートといった集合住宅の町内会への加入は、どこの地域においても大きな課題となっています。

賃貸住宅に対しては、管理会社と連携することで効果的な加入促進につながるケースがあります。

また、ごみステーションの管理や冬季の排雪などのほか、「防災」という視点で地域づくりの重要性をPRすることで町内会への加入を促すことが考えられます。

管理会社との連携

集合住宅の加入促進では、マンション・アパートの個々の居住者に対して加入促進を行うことは難しい場合があります。

そこで、建設中に賃貸住宅の管理会社に対し町内会加入手続きの働きかけすると、協力してもらいやすくなります。

また、単位町内会と連合町内会の連名で、管理会社に町内会の重要性やメリットなどをPRすることも一つの方法です。



他都市の取組

集合住宅入居者向け加入促進パンフレットを発行（新宿区町会連合会）

新宿区町会連合会は、集合住宅入居者の加入率を上げるためにパンフレットを作成しています。パンフレットには、災害時の「一時集合場所」をマンション住民が町会・自治会に聞いてから記入する欄を設けたり、入会申込書を設けたりするなどの工夫がされています。

6 効果的な勧誘、集中的な加入促進の取組

未加入者に町内会へ加入してもらうには、知ってもらうことや関心を持ってもらうことと併せて「集中的に加入促進を行う取組」が必要になります。

ある地域では、加入促進委員会を立ち上げて精力的に加入促進に取り組んだ結果、加入率が高まったという事例もあります。

加入促進委員会を設置して積極的に加入促進

町内会の加入促進委員会などを設置して、地域の課題に応じて、集中的に加入促進に取り組むことも大切です。

白石地区連合町内会では、連合町内会の内部組織として「町内会加入促進委員会」を設置し、単位町内会ごとの加入率の調査を実施しています。町内会ごとの具体的な状況が把握されることで、その後の取組推進にもつながっています。

また、「町内会加入勧誘チラシ」を活用した効果的な勧誘方法について議論し、配布手順のマニュアルを作成し、具体的な加入促進活動を実施しています。

このような取組を通して、加入世帯数が徐々に増えてきています。

札幌市内
町内会の
事例

加入促進委員会により加入促進の取組を

地域によって集合住宅が多いなど特徴がありますが、加入率を上げるため町内会加入促進に重点的に取り組む加入促進委員会を設置しています。連合町内会が一丸となって加入促進の取組を行っています。(白石地区連合町内会)

コラム

運営についての話し合いが加入率増加に（手稲区夢トピア星置町内会連合会）

夢トピア星置町内会連合会では、町内会の設立の際に、町内会の運営について時間をかけてじっくり話し合いながら十分に検討しました。地域住民としっかり話し合ったことが高い加入率につながっています。

呼びかけマニュアルの作成

町内会加入の勧誘活動は主に役員や班長が行っている地域が多いですが、初めて勧誘活動をする人には難しい場合もあります。また、時には町内会の必要性などを説明するセールストークも必要になります。

例えば、加入促進活動を行うためのマニュアルなどを作成し、役員や班長がノウハウを共有することで効果的な勧誘活動につながることもあります。



他都市の取組

マニュアル作成で手順などを紹介（室蘭市）

室蘭市連合町会協議会は、町会加入を促進するためのマニュアルを作成し、呼びかけ方法や手順を説明したり、想定される質問への回答例などを紹介したりしています。

団体への呼びかけ

町内会に加入したいと思っても、個人ではなかなか加入しづらいこともあるようです。そのためPTAなどの団体へ加入促進の呼びかけをすることで、加入しやすくなることもあります。

また、地域に老人ホームやグループホームなどがある場合には、施設や団体に呼びかけを行い、町内会費を安くした上で入居者が加入している地域もあります。

新規転入者への呼びかけ

新規転入者に対して、すぐに役員や班長などが直接勧誘して加入の呼びかけをすると、加入につながる人が多いようです。

その際には、会報やチラシなどを活用して、ごみステーションの管理や排雪などの町内会活動の内容や役割を説明することでより加入への理解が促されます。

マンションにおいても同様で、直接的に顔をあわせて説明することがポイントになります。十分に説明をしても町内会に加入してもらえない場合もありますが、焦らずにじっくりと時間をかけながら町内会のことを理解してもらうよう説明することも必要です。



札幌市内
町内会の
事例

時にはじっくり根気よく説明することも大切

新たに町内会に越してきた人がいる場合は、転入した人の自宅に班長が出向いて町内会の取組などについて説明して加入してもらっています。なかなか加入してもらえない場合もありますが、会長が時間をかけてじっくり説明して加入してもらうようにしています。(元町一区町内会)

個人的なつながりを活用

子育てママやPTAなど地域の女性のつながりをうまく活用すると、そのつながりやネットワークを通して、町内会の活動を知ってもらうことができます。活動への理解が深まるため、加入促進につながることを期待できます。

また、保護者や趣味のつながりといったネットワークを活用することで、町内会の加入にとどまらず、活動でも協力が得られやすくなることもあります。



7 ライフスタイルに合わせた取組

平日の日中は仕事や学校のサークルがあり忙しく、土日もなかなか空いていない、子育て中で目が離せない、転勤で引越予定など、地域に暮らす人々には個人的な状況やライフスタイルの違いがあります。また、暮らしのリズムや居住形態（戸建て、アパート・マンションなど）も千差万別です。

こうしたさまざまな事情に合わせた加入手法や制度を検討してみることも重要です。例えば、加入方法を簡易なものにすることで、加入にかかる手間が少なくなり、加入促進につながるかもしれません。

新たな会員制度を取り入れる

地域で暮らす住民のライフスタイルは多様であり、年齢構成、住居形態、定住率など地域特性もさまざまです。住民のライフスタイルに合わせた会員の制度を設けると加入しやすくなるかもしれません。

現役世代などは、町内会活動への参加が時間的には難しいことが多いものの、除雪費などは払うという人もいるため、「特別会員」や「賛助会員」などの制度をつくることも加入しやすい工夫となります。

他都市の取組

企業も地域コミュニティの一員として（福岡県北九州市）

企業が多く立地している地域では、企業も自治会に加入しており、地域活動に企業が積極的に参加し協力しています。企業への働きかけについても根気よく行うことが大切です。企業にとっても地域と良好な関係を築くことはメリットになる場合があります。

会費の徴収方法の工夫

マンションの管理組合等に町内会費を納めてもらう場合など、半年払いや年一括払いにするなど、管理会社に負担をかけないようにすることも有効です。

札幌市内
町内会の
事例

加入手続きの手間を解消して加入促進へ

町内会への加入を案内するチラシに、会長の名前や住所、電話番号、ファクス番号を記載するとともに、申込の欄を設けてファクスで加入できるようにしました。申し込みたい人が24時間申し込める体制が気軽に入会できるポイントです。（白石地区連合町内会）



(3) 活動の担い手を確保するヒント

1 町内会活動に関わるきっかけづくり

町内会活動の担い手を見つけ、育てていくために、まずは多くの方に町内会活動に参加して、関わってもらう必要があります。そのためには、参加しやすいイベントなどの取組と、ターゲットに合わせた情報ツールを活用した広報活動が求められます。

また、地域への愛着を深めることができるような広報活動や参加の場づくりも重要です。

会報・回覧板の活用

町内会の活動に多くの方が参加してもらうための最初のステップとして、どのような活動があるのかをしっかりと知ってもらうことが大切です。

そのために既存の回覧板について見直し、内容や回覧方法などを工夫することで、さらに活動を知ってもらうとともに、活動への参加につながります。

また、イベントの運営などを手伝ってくれるスタッフを探していることをしっかりと発信することも必要です。



例えば…

回覧板を活用してイベントに対する興味を引き出す

- ・ 回覧板に企画中のイベント等に対する「意見募集欄」を掲載する。
- ・ 現在イベントの企画に関わっている人たち以外にも興味を持ってもらい、企画会議などへの参加を促す。

情報の整理を行い、一目見てわかる内容に

- ・ 回覧板にはさまざまな団体等のお知らせがたくさんあるため、回覧板の内容が一目で分かるように目次をつけて回覧する。

厳選した内容と発行時期を検討する

- ・ 回覧の回数が多いと情報が煩雑になることがあるため、広報さっぽろ発行の2週間くらいに一括して回覧する。

負担も減って、効率的に情報提供できます！

札幌市内町内会の事例

イベントの申込みに回覧板を活用

夏祭りや音楽や踊りなどを行っており、その参加者募集に回覧板を活用しています。回覧板に入れた募集チラシに直接、自分の得意な分野や出演できる時間などを書いて回してもらうようにしています。応募の手間が省けるためか、若い人も高齢者の方も結構参加してくれます。(大谷地第1町内会)

声掛けによる協力者の確保

活動の担い手を増やしていくためには、地道に普段から地域の方に声を掛けていく必要があります。また、最初は断られたとしても、継続的に声を掛けていくことで、個人的状況や心境の変化などにより、参加が可能になる場合もあります。普段から声を掛け、継続的に接点を持つことは、地域での良好な関係づくりにとっても大切です。

例えば…

子どものイベントを通した親世代への声掛け

- ・ 子どもが参加するイベントには、普段町内会活動に参加しない親なども送り迎えや付き添う場合が多いので、そういう機会に声を掛けて、話しやすい関係を作る。
- ・ 親子のイベントを企画し、母親にも一緒に来てもらうなど、保護者を巻き込んでいくことで、自然と町内会活動への理解も深まっていく。

近隣企業への声掛け

- ・ 近隣の企業にも町内会のお知らせや会報などを配布し、情報発信していく。
- ・ 花植えやごみ拾いの活動など、企業が協力可能なイベントをきっかけとして、地域の企業に声掛けを行い、無理のない範囲で継続した参加につなげていく。

集合住宅入居者への声掛け

- ・ 分譲の集合住宅の多い地域では、マンション建設時に管理会社へ町内会加入の依頼と共に班長を設置する要請を打診する。
- ・ 班長を経験し町内会活動に関わることで、町内会活動への理解が深められ、集合住宅と戸建て住宅の接点も得られる。

町内会活動にあまり参加していない集合住宅入居者とどのように接点を持つかがポイント。

学生の意見

誘う側は、年齢が近い世代がよいのでは？

中学生や高校生になると町内会活動に参加しなくなる学生も増えてくると思います。思春期は難しい時期なので、親や役員が参加を促すよりも、年齢の近い大学生から誘われた方が受け入れられやすいのではないのでしょうか。

さまざまなPRツールの活用

回覧板などのほか、ホームページや新たな発信方法などさまざまな方法や機会を活用して、町内会活動への参加を継続的に呼びかけていくことが必要です。

若い世代はインターネットやスマホ（スマートフォン）などで情報収集している人が多く、それらに対応した発信方法の工夫も求められます。



例えば…

世代に応じた情報発信を検討する

- ・ インターネットを活用して町内会のホームページを作成し参加の呼びかけを行う。
- ・ 高齢者にはチラシやパンフレットの紙媒体を中心に発信するなど、さまざまな方法での情報発信を行う。

若者にはツイッター、中高年には
メーリングリストなどが有効！

イベントをPRの場と考える

- ・ みんなが参加しやすいお祭りや盆踊りなどのイベントを活用してPRブースを設置し、活動の参加勧誘やスタッフ募集の情報発信を行う。

掲示板を活用してスタッフを募集する

- ・ 町内会の区域にある掲示板を活用し、イベントスタッフ募集のチラシを貼るなどして活動の担い手を確保する。

札幌市内 町内会の 事例

提案箱で町内の意見収集

会員の皆さんが総会だけでなく1年中意見を出せるように、提案箱を町内会館の玄関においています。活動の相談や総会の進め方のほか、身近な楽しいニュースなど前向きな意見も寄せられており、地域の方が何を求めているか情報収集に役立っています。(円山西町町内会)

学生の 意見

イベントカレンダーがあれば予定を立てやすい！

町内会のイベントカレンダーなどがあると学生としてもわかりやすいし、自分の予定と合わせることができるので参加しやすくなると思います。また、会館の前やごみステーションに掲示を行うと、目にする機会が増えるのではないのでしょうか。



子どもの参加意識を育てる

幼い子どものうちから、さまざまな世代と交流する機会を持つことは、子どもの町内会に対する意識醸成や活動の協力者確保につながります。

そうすることで、町内会への愛着も生まれ、身近な存在となり、将来的な担い手につながっていくことでしょう。



例えば…

小中学校と連携して町内会活動に馴染んでもらう

- ・ 町内会のメンバーだけで行う防犯などの活動に、地域の小中学校の協力を得て、子どもたちにも参加してもらい、町内会への参加意識を高める。
- ・ 地域の除雪を中学校と協力して一緒に行うことで、除雪を通して町内会への参加意識を高める。

子どもを通じて親世代の理解を深める

- ・ 子どもの町内会活動をきっかけとして、その親にも町内会活動の重要性を知ってもらうようにする。
- ・ 子どもの町内会行事の参加などを通してPTAと連携する。

札幌市内 町内会の 事例

町内会活動のDVDを制作して子どもの理解を促す

町内会活動やあいさつの大切さを子どもたちにも知ってもらうため、広報用DVDを作成しました。小中学校の協力もいただき、授業の中でDVDを使った講話もさせてもらっています。このほか、毎年度イベント写真を収録したDVDを制作し100円で販売しています。地域への愛着へとつながっていると実感しています。（アリアパーク平岡町内会）

学生の 意見

子どものころから町内会に！

小さい時に町内会行事等への参加を体験していると、大人になっても壁をつくらず町内会活動に参加する傾向にあると思います。小・中・高校生からの教育が大切だと思います。

イベントを通じた参加の機会提供

担い手を見つけていくためには、イベントなどの町内会活動に参加して、体験してもらうことが重要です。

お祭りや盆踊り大会など、行事の実行委員会に入ってもらうことも、参加のきっかけづくりになります。参加の機会を定例的かつ継続的に設けて、参加してもらうようにすることが大切です。

例えば…

イベント時をきっかけに人材を発掘する

- ・ イベント時に、まずは運営スタッフとして手伝ってもらおう。
- ・ イベントの企画段階で若者や学校、他団体に参加してもらおう。
- ・ 「健康教室」など、多くの人が集まる機会を活用して、人材を発掘していく。
- ・ 大人から子どもまで集まってバーベキューを行うなど、誰でも参加しやすいイベントを企画する。

<p>札幌市内 町内会の 事例</p>	<p>子どもから高齢者まで畑を通じて活動。町内会の収入源にも</p> <p>興味をもって参加してもらったり町内会の収入増を目的に『アリアの畑』を作り、高齢者が野菜を栽培し、収穫した野菜を販売しています。販売で残った野菜は、『子どもイモ売り隊』が町内会の朝市で売るなど、子どもから年配の方まで楽しく参加できるので、大変喜ばれています。また、町内会の収入増にもつながっており、地域全体で盛り上がっています。(アリアパーク平岡町内会)</p>
<p>学生の 意見</p>	<p>気軽に参加できる期間・プロジェクト内容があると良い！</p> <p>イベントやお祭りなどのお手伝いのほうが気軽に参加しやすいので、短い期間のプロジェクトに参加できる仕組みがあるといいと思います。</p> <p>町内会には、福祉や防犯などさまざまな分野があると思うので、その分野やテーマ別に協力者の仕組みを設けるようにする方法があるのではないのでしょうか。</p>

2 若者・現役世代が参加しやすい環境づくり

若者や現役世代は仕事などが忙しく参加してもらえないことが多いですが、実際には参加の意識があっても、町内会との接点がなく、参加の仕方がわからない人もいます。そのため、若者や現役世代との接点づくりが大切になります。

一方で、町内会活動は負担が大きいイメージを持っている人もいます。忙しい人でも参加しやすいよう、時間的な融通がきく参加方法やイベントなどの単発の手伝いをお願いするといった工夫、参加しやすい環境をつくることが重要です。

若者が参加しやすいきっかけや接点づくり

今のところ、学生などの若者が、町内会のイベント等の情報を知ることは難しい状況です。そのため、町内会から積極的に学生などと接点づくりを進めることが重要です。

学生が情報を入手しやすい場所やネットワークを活用して、活動に参加してもらうきっかけを作っていきましょう。

例えば…

世代にマッチした情報発信方法を選択する

- ・ 学生がよく利用する場所などへ勧誘チラシを掲示する。
- ・ 学生や若い世代にはFacebookなどのSNS^{フェイスブック エスエヌエス}※を活用した情報発信を行う。
- ・ 学生とつながりのある組織やサークル、ボランティア部などのネットワークを活用して情報発信する。

大学のボランティア部などは他の学生とつながりがあり、参加してもらいやすい！

学生の意見

参加のメリットや魅力を感じる町内会の仕組みが必要

一方的なボランティアではなく、参加する若者にもメリットがあると、一層参加が促されると思います。割引券などのわかりやすいメリットや、大学と連携した単位の取得制度など、町内会活動のポイント制などもいいのではないのでしょうか。

他都市の取組

自治会参加に割引特典を（相模原市自治連合会）

若い人を中心に自治会離れが進んでいることから、宿泊施設や遊園地・レジャー施設などの利用料金が割引になる厚生制度を導入しています。

※ SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）
インターネット上の交流を通して社会的ネットワーク（ソーシャル・ネットワーク）を構築するサービスのこと。代表的なSNSとして、Facebook、Twitter、LINE、Amebaなどがある。

参加を促す関係・環境づくり

若い世代の参加を促すには、学生などの若者と町内会がつながるきっかけが必要です。また、学生などは一過性の参加や関係になりがちなので、交流を繰り返して顔の見える関係やつながりを作っていくことが大切です。

そのため、できるだけ長く継続的に町内会に関わってもらえる仕組みを考えてはどうでしょうか。



例えば…

一過性に終わらない関わり方を検討する

- ・ ホームページの作成などの若者の発想やノウハウを活用する。
- ・ 地域外からも参加できる仕組みや雰囲気をつくる。
- ・ 単なる手伝いなどの単発的な参加から、企画運営などの継続的な参加につなげていく。

参加しやすい環境づくりを検討する

- ・ 町内会活動は、普段の仕事のノウハウを活かせる場であることを地域へ広く周知する。
- ・ 会議や町内会の行事はみんなが参加しやすいように日時を工夫する。
- ・ イベントの設営などを大学生に手伝ってもらえる場合には、時間で拘束するのではなく、できることだけでも関わってもらえるように状況に応じた対応をする。

他都市の取組

ホームページの作成をきっかけに若者が町内会活動に参加（広島市）

地域のホームページをつくることになった広島県のとある町内会では、ホームページの編集会議に、パソコンの知識のある30歳代の方に参加をお願いし、講義を行っていたそうです。

それまでは、まったく町内会に関心を持っていなかったこの方も、その講義をきっかけに、町内会活動に興味を持つようになり、最近では、徐々に同年代の仲間も町内会活動に参加するようになり、町内会の会員が増えていっています。



3 他組織との連携で人材不足を補う

少子化の進行に伴って、町内会運営や活動を担う人材が不足するだけでなく、イベントの参加者も減っています。他の町内会や、学校、その他の団体と連携することで、人材やイベントの参加者を確保し、より実りある活動の展開が期待できます。



例えば…

他の町内会との連携を考える

- ・ 一つの単位町内会だけでなく、複数の町内会が連携したイベントや行事を行う。一つの町内会では規模や予算的にできない行事でも複数の町内会が一緒に行うことで可能になる場合がある。近隣の町内会と情報交換し活動内容を共有することが大切。

学校との協力関係を築く

- ・ 地域の学校と協力して子どものイベントを行う。小学生の授業の中で「住んでいる地域を知る」などの項目がある場合があり、連携して行事に取り組める可能性がある。
- ・ 町内会と学校とが相互で協力し合う関係づくりにより、新たな連携した取組の可能性を検討する。

青少年育成委員会や子ども会との連携を考える

- ・ 「青少年育成委員会」や「子ども会」と連携した行事を検討する。
- ・ 特に子ども会の運営は、子育て中の母親が担っていることもしばしばあるため、役員になってもらったり、会議などに参加してもらえたりするよう働きかける。

P T Aなどの組織との連携を考える

- ・ P T Aなど地域のさまざまな団体と連携して、町内会や地域づくりをテーマとした会議を開催する。
- ・ 札幌市市民活動サポートセンター^{※1}や、札幌市若者活動センター^{※2}などを活用して、N P O団体や若者の活動団体を探す。

※1 札幌市市民活動サポートセンター
札幌で活動しているボランティアやN P O団体など、さまざまな分野の市民活動団体を支援する総合拠点。

※2 札幌市若者活動センター
若者と地域をつなぐ拠点として、若者のまちづくり活動やイベントへの参加をサポートする施設。

(4) 役員の担い手を確保するヒント

1 負担を感じさせない配慮と任期の明確化

町内会活動は会議等により時間的に拘束されるなど、役員の負担感が大きい側面があります。そのため参加を避けられる傾向があり、それが役員の固定化につながっています。さまざまな人の参加を促し、町内会活動を活発化するためには、柔軟な役割分担や優先順位の認識を共有するといった配慮、負担軽減のための仕組みづくりが重要です。

活動が負担にならないための配慮

町内会役員の活動が負担とならないよう、共通の認識や精神的なサポート、私的な予定への配慮も必要です。また、一人で抱え込んで負担とならないような体制づくりも重要です。

例えば…

できる範囲で活動してもらおう共通認識づくり

- ・ 例えば、「一に仕事 二に家庭 その次が町内会」などの優先順位を共通認識として日頃から心がける。

はじめて役員につく方への配慮

- ・ 役員未経験者でもすぐ役員の仕事ができるように、マニュアル整備やしおり作成など役員を引き受けやすい環境づくりを進める。
- ・ 役員未経験者には、あまり負担を感じさせない役職や「青少年育成」「防犯」「環境」などのわかりやすいテーマの役職を担当してもらうことから始める。

班長の参加を促す

- ・ 班長も会議に入ってもらい、情報を共有することで、その後の役員確保につなげる。

スケジュールの配慮

- ・ 現役世代の役員の都合や時間に合わせて会議を行うなど、経験者が全面的にバックアップする環境をつくる。
- ・ 会議日程等を参加しやすい曜日に設定したり、事前に年間のスケジュールを伝え予定が立てやすいように配慮する。

負担を軽減する取組

- ・ 役員の仕事を分担する仕組みをつくる。
- ・ 負担が重い役職には副部長を数人配置するなど、大変と思われる役職をサポートする体制をつくる。

札幌市内
町内会の
事例

2 人体制にして負担軽減

役員の中でも負担の大きい会計の仕事を2人体制にして負担軽減を図っています。また、福祉部を2人体制にしたことで、高齢者の見守りなどもこれまで以上に取り組むことができるなど、活動の活性化にもつながっています。(新琴似三和第二町内会)

役員任期について

会の規約等で定めている役員任期について、結成当初から同じもので、現在の状況に即していない場合には、任期の見直しにより、担い手の確保につながる場合もあります。

そこで、役員任期を短くしたり、交代制にしたりすることで負担を軽減できる場合もあります。また、毎年役員半数を交代して負担にならないように工夫している町内会もあります。

その際、状況に合わないほどの短い期間で会長や役員が交代すると、組織編成がその度が変わってしまい、かえって負担が増えることも懸念されるため、地域状況に合わせた任期を設定することが必要となります。

また、町内会長の後継者育成も必要であり、任期の終わる前から引き継ぎを行い、仕事を分担するといった次の担い手を育てていく意識も大切です。

コラム

後継者の育成を意識した組織運営（ワークショップの意見から）

会長には後継者育成の意識も欠かせません。自分の後任になる人を見つけて引き継いでいくことが必要です。会長の任期を6年にするのであれば、最後の2年間ぐらいで後継者育成を行うようにすると、スムーズに引き継げると思います。

2 勧誘活動の工夫

人材確保の手法として一番有効なのは個別の声掛けですが、しっかりとした人選が必要になります。組織運営の経験がない人よりも、企業やPTAなどの役員をしていた人の方が、抵抗がなく参加してもらえる可能性が高いようです。一方で、お試し役員や学生役職等を設けて、若者の参加を促している町内会もあります。

若者が役員として参加する仕組みづくり

若い世代の方には、現役役員と一緒に「お試し役員」などを行ってもらうことで、将来の人材発掘にも役立つのではないのでしょうか。若者が活動しやすい役職を設けたり、若者活動団体などから一時的に支援を受けるといったことも考えられます。

会計など若い人の方が得意と思われる仕事を手伝ってもらうなど、ハードルを低くして気軽に協力できるような雰囲気をつくることも重要です。



役員勧誘は日頃のコミュニケーションから

役員勧誘方法として、現役時代の経験などを把握して勧誘すると効果が高いことがあります。そのため、役員候補となる人には、日頃から行事などで積極的にコミュニケーションをとっておくことも重要となります。

例えば…

組織に属していた方や役員経験のある方に声掛けを行う

- ・ 組織の運営に関係してきた方々など、経験のある人にアプローチする。
- ・ 小中学校でPTA役員をやっていた方など、町内会役員を引き受けてくれる可能性が高い人を将来的な役員候補として把握しておく。

声掛け前のアプローチを大切にする

- ・ 町内会のお祭りや新年会などに参加している若い世代に対してアプローチする。
- ・ 退職が近い方の情報を集めておき、行事などで会った際に積極的に声をかけ、コミュニケーションを図る。
- ・ 役員を勧誘して断られた場合には、その理由をしっかりと分析して整理し、次のアプローチに活かすようにする。

札幌市内町内会の事例

お互いを知ることから担い手確保につながる関係をつくる

役員の成り手不足は住民全体の問題として捉えてもらう必要があります。住民に、どのような人がどのような活動をしているのかを分かってもらうとともに、役員たちにも地域にはどのような方がいるのかを知ってもらう中で協力関係を築き、役員を引き受けてもらえるようにしてはと思っています。(常盤団地町内会)

(5) 町内会活動の見直しのポイント

1 規約や事業の定期的な見直し

地域のさまざまな方々が、組織的にまちづくり活動を行うためには、その組織のルールとなる「規約」の内容はとても重要です。

どのような活動をするのか、役割分担はどのようにするのか、会費はいくらなのかなどのルールが適切で、地域の状況に即しているかどうか大切です。

地域の状況や時代の変化などにより、実際の活動と規約が合わなくなっている場合もあります。

また、これまで継続してきた活動や、組織・役員構成などは、世代・年齢構成、加入世帯数、住民層の変化等とともに、住民の実情やライフスタイルに合わなくなっていたり、負担感が増えていたりすることもあります。そして、地域の課題は会員の年齢構成などによっても変化するので「地域の今」を考え、事業の整理や重点化の検討をすることも大切です。

結成当初、規約を作成する段階では、他町内会の例を参考としていたり、連合町内会の規約にあわせて作成していたりする場合もあるので、地域の現状にあわせて見直してみると、活動しやすくなることもあるので、活動に負担感を感じたら、規約を見直してみることも有効かもしれません。



- 作成してから長い時間を経過している規約は、現状の活動と合致していない場合があるので、見直すことも有効。
- 町内会の規模や地域課題等、地域の状況に応じた規約づくりを考えてみる。
- 地域の現状に照らして現在実施している活動の必要性や効果を見直してみる。

2 活動の改善分析と検討

町内会・自治会で行っている活動や行事は多岐にわたっており、福祉や子育て支援、親睦交流などの行事が年間を通してたくさん行われています。

しかし、参加者が少なかったり、顔ぶれが同じだったりという状況から、もっと多くの参加者を増やしたい、若い世代などに参加してもらいたいと思っている町内会も多いことでしょう。

その背景として、町内会役員が企画する行事の内容などが、もしかしたら参加してもらいたい世代や層のニーズと合っていないこともあるかもしれません。

そこで、町内会活動を活性化させるため、活動内容や方法について見直して、現状の参加状況とのギャップを分析し、改善する手立てにすることも方法の一つです。

以下は、組織運営の改善を検討する手法をもとに作った分析の手順例です。

■町内会活動の改善分析の手順（例）

町内会で行っている行事について、参加してもらいたいと思っている世代層などを確認します。

次に、実際に現状参加している世代層を検証します。

町内会が思っている「参加してもらいたい層」と「現状参加している層」を比較しましょう。比較した結果、ギャップがあるかを確認しましょう。

もし、「参加してもらいたい世代」が参加していない場合は、参加者のニーズに合っていないかもしれません。

比較を通して、企画段階や情報発信、実施・運営方法の視点で、住民ニーズと合っているか、改善・工夫の方法はないかを検討しましょう。

※ これらの分析や検討を通して、活動・行事のほか、必要に応じて組織運営なども見つめ直すことのきっかけになります。

※ 84 ページ『活動の改善・分析シート』の活用も検討の際の参考となります。

コラム

これまでの活動の振り返りと新たな取組（北区麻生地区）

いくつかの単位町内会の会長や役員などによって、これまでの活動を現在の社会状況と照らして客観的に振り返り、新たな取組を検討しています。

3 会議の運営方法の工夫

町内会・自治会は、役員会のほか、総務部や防犯防災部などさまざまな部会で組織されており、意思決定のため、部会ごとに多くの会議が行われています。

しかし、なかなか決まらなかったり、時間が多くかかったり、意見があまり出なかったりすることはないでしょうか？

会議の運営方法を工夫することで、会議時間の短縮やメリハリのある会議を行うことができます。ちょっとした配慮や工夫、改善を通して効率的な会議運営を心がけましょう。

Q.会議時間が長くなってしまいうんです…

A.会議を行う際には、目的や議題がはっきりしていないと時間ばかりかかってしまうことがあります。

加えて、会議の時間が長引くと集中力が欠けていきます。また、現役世代の人などは忙しいなか会議に参加している人も多いことでしょう。

そのため、はじめに設定した会議時間を厳守する進行に留意することが大切です。

Q.話題が拡散して議題の検討がなかなか進まないのですが…

A.会議の目的や議題がはっきりしていないと、何を話したらいいか分からず脱線することもあります。

会議の目的や話し合う内容、決めなければならない事項などを、事前に参加者みんなまで共有すると時間の短縮につながります。会議の案内の際に当日の議題を事前にお知らせし、準備してきてもらうことも有効です。

Q.資料の説明が多すぎて、議論する時間がいつも短くなってしまいます…

A.会議資料の説明は、できるだけ短く簡潔に説明するよう心がけましょう。そのためにも、資料の量を少なくしたり、ポイントを整理したりすることが有効です。

また、事前に当日の議題と合わせて資料を配布しておくことで説明を簡略化することができるでしょう。

Q.みんなが意見を言いやすくするには？

A.会議の議題を共有したうえで、より建設的に議論するためには、議題に関する情報を参加者全員が共有することが重要です。同じ情報を共有していないと、議論の焦点が定まらなかったり繰り返しになったりします。議題に関する情報をわかりやすく示しながら進行することに配慮しましょう。

Q.アイデアを考える会議だけど、新しい発想があまり出てこないのですが…

A.イベントの企画や新しい取組などの検討会議など、たくさんのアイデアを出してもらいたいときもあるかと思います。そのようなときは、楽しい雰囲気アイデア出しができるブレインストーミング※の手法もよいでしょう。

※ ブレインストーミング

あるテーマに対して、お互いに意見を出し合うことにより、たくさんのアイデアを生み出しながら検討する会議の手法。次の4つのルールを守ってアイデアを出す。①判断・結論を出さない（結論厳禁）、②粗野な考えを歓迎する（自由奔放）、③量を重視する（質より量）、④アイデアを結合し発展させる（結合改善）

5 活動する上で連携している団体

まちづくり活動を行う上で、連合町内会や地域の他団体と連携して進めた方が活動の幅が広がることもあります。

例えば、交通安全関係では交通安全実践会や交通安全協会、子どもの見守りでは学校やPTA、子育て支援は子育てサークルやボランティアの会など、活動のテーマに応じて連携することで、町内会単独で取組を行う場合よりも充実した活動を行うことができます。

また、複数の町内会との連携は、地域を越えた住民同士の交流も生まれ、活動の幅が広がるとともに財政的な負担の軽減にもつながります。

このほか、専門知識を持つ専門学校や大学などもまちづくりの大切なパートナーですので、協力を呼びかけてみてはいかがでしょうか。

■札幌市が関与している団体【所管部局】

地域福祉	地区社会福祉協議会 地域福祉の推進を図ることを目的に組織された団体です。地域住民の見守り・安否確認や子育て家庭の交流会など、さまざまな地域の支えあい活動を行っています。
	地区民生委員児童委員協議会【各区役所保健福祉課】 民生委員・児童委員相互の活動について連絡・調整を図り、関係行政機関との連携のもと、活動の健全なる発展のために組織された団体です。民生委員・児童委員は、お年寄りや体の不自由な方、子どもや子育てにかかわる福祉に関する相談に応じ、必要な支援を行っています。
	福祉のまち推進センター運営委員会【各区社会福祉協議会】 誰もが安心して暮らせる地域社会づくりを推進するため、社会福祉協議会が設置するさまざまな福祉活動を行う組織です。運営委員会が中心となって、日常的な支え合い活動や福祉に関する相談業務、ふれあい交流活動等を行っています。
健全育成	地区青少年育成委員会【各区役所地域振興課】 青少年の健全育成などを目的に組織されている団体です。スポーツ、文化、体験行事等の開催や、子どもたちを見守るためのパトロールなどを行っています。
	中学校区青少年健全育成推進会【各区役所地域振興課】 中学校区単位で、学校を中心としながら青少年の健全育成などを目的に組織されている団体です。学校、PTA、青少年育成委員、民生児童委員、保護司、町内会関係者などで構成されています。
	児童会館運営委員会・運営協力会【子ども企画課 211-2982】 児童会館運営に地域の意見や協力を求めるために組織されている団体です。単位町内会の会長、役員などで構成されています。
交通安全	交通安全実践会【各区交通安全運動推進委員会】 地域内の交通事故防止を目的として組織されている団体です。地域内の交通安全推進団体の代表などで構成され、区交通安全運動推進委員会と連携し、交通安全市民総ぐるみ運動と連動した地域における街頭啓発などを行っています。
	交通安全母の会【各区交通安全運動推進委員会】 家庭や地域内での交通事故防止を目的に組織されている団体です。地域の女性で構成され、交通安全市民総ぐるみ運動と連動した地域における街頭啓発などを行っています。
	スクールゾーン実行委員会【各区交通安全運動推進委員会】 小学校（一部の幼稚園あり）スクールゾーン内の交通事故防止を目的に組織されている団体です。交通安全実践会、PTA、町内会、学校及び交通安全関係団体の代表者などで構成され、スクールゾーン内の危険個所の点検などを行っています。
防火	防火委員（区単位）【各消防署】 地域住民の自主防火活動の育成支援と防火思想の普及向上を目的に組織されている団体です。地域内の防火委員で構成され、防火キャンペーンなどの啓発活動を行っています。
	少年消防クラブ（連合町内会単位）【各消防署】 小学生のころから火災に関する知識を身につけることなどを目的として組織されている団体です。クラブ員の父母、消防団員で構成され、防災訓練や防火啓発活動などを行っています。

健康・スポーツ	食生活改善推進員協議会【各区役所健康・子ども課】 食生活改善員で組織されている団体です。食の大切さを伝える活動を行っています。
	スポーツ推進委員会【スポーツ部企画事業課 211-3044】 地域内のスポーツ推進委員で組織されている団体です。地域のさまざまなスポーツ行事に関わっています。
	体育(スポーツ)振興会【各区役所地域振興課】 小学校区を中心として、地域のスポーツ振興を目的に組織されている団体です。地域住民(町内会関係者、スポーツ推進委員など)で構成され、小学校の学校開放体育館を管理しています。
その他	地区統計調査員協議会【各区役所地域振興課】 統計調査員の資質向上、相互協力や情報交換などを目的に組織されている団体です。登録調査員で組織されています。
	クリーンさっぽろ衛生推進協議会(区単位)【環境事業部業務課 211-2916】 地域における環境美化、ごみの減量、リサイクル推進などの目的のため、町内会毎の「クリーンさっぽろ衛生推進員」及び連合町内会毎の「クリーンさっぽろ衛生地域推進員」から構成されている組織です。
	除雪連絡協議会(ゾーン単位)【雪対策室事業課 211-2662】 地域に密着した合理的な道路除雪を行うことを目的に組織されている団体です。町内会長、市、除雪業務委託者で構成されています。
	成人の日行事実施委員会(区単位)【各区役所地域振興課】 地域をあげて新成人の門出を祝い、新成人の心に残る式典にすることを目的に組織されている団体です。青少年育成委員会を中心に構成されています。
	明るい選挙推進協会(区単位)【各区役所総務企画課】 明るくきれいな選挙の啓発を効果的に推進することを目的に組織されている団体です。地域の団体からの推薦者などで構成されています。
	商店街振興組合、商工会【産業振興部産業振興課 211-2372】 小売業やサービス業を営む者等で組織された団体であり、地域住民の消費生活を支えるとともに、地域の文化・伝統の継承や発展、環境改善などのコミュニティ活動も担っています。

■札幌市以外の関連団体、委員

警察署関係	防犯協会 安全で安心できる犯罪のない明るい地域をつくるため、地域住民の防犯意識の高揚と自主地域安全活動などの推進を目的に組織されている団体です。
	暴力追放運動推進協議会 明るく住みよい地域をつくるため、暴力追放や暴力団排除運動などの推進を目的に組織されている団体です。
	地区交通安全協会 交通道徳の高揚を図り、交通安全を確保することを目的に組織されている団体です。
	地域生活安全推進員 住民・自治体・警察と連携を図りながら、地域と密着した防犯活動を率先して行うリーダーです。
その他	日本赤十字社札幌地区本部地区奉仕団 日本赤十字活動を推進するための奉仕活動を行っている団体です。
	共同募金地区分会 毎年秋に全国一斉に展開される「赤い羽根共同募金運動」の目的達成のため、募金活動を計画、実施しています。
	自衛隊協力会 自衛隊に対する理解を深め、郷土の安全と自衛隊の健全な発展を期待するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的に組織されている団体です。
	保護司会 法務大臣の委嘱を受けて、犯罪や非行に陥った人の更生を支援する保護司で構成されています。研修、犯罪予防活動、関係機関との連絡調整、広報活動などを組織的に行っています。

■札幌市のまちづくりセンター 【全87か所】

※ 建替等により一時移転している場合もあるのでご注意ください。
★地域自主運営を実施しているセンターです。

中央区		
大通公園	北1条西9丁目	251-6353
東北	北2条東2丁目	251-8119
苗穂	北1条東10丁目	261-3669
東	南2条東6丁目	241-1696
豊水	南8条西2丁目	521-0204
西創成	南5条西7丁目	521-2384
曙	南11条西10丁目	511-0116
山鼻	南23条西10丁目	511-6371
幌西	南11条西14丁目	561-3256
西	南6条西13丁目	561-7124
南円山	南9条西21丁目	561-2472
円山	北1条西23丁目	611-3367
桑園	北7条西15丁目	621-3405
宮の森	宮の森2条11丁目	644-8760
北区		
鉄西	北10条西4丁目	726-5285
幌北	北17条西5丁目	726-6345
北	北29条西7丁目	726-4385
新川	新川1条4丁目	762-2604
新琴似	新琴似7条4丁目	761-4205
新琴似西	新琴似7条14丁目	762-8767
屯田	屯田5条6丁目	772-1260
麻生★	北39条西5丁目	757-5810
太平百合が原	太平8条7丁目	771-9180
拓北・あいの里	あいの里1条6丁目	778-2355
篠路	篠路4条7丁目	771-2231
東区		
鉄東	北9条東5丁目	721-3105
北光	北18条東5丁目	721-1271
北栄	北25条東7丁目	721-6336
栄西	北42条東4丁目	752-9536
栄東	北41条東14丁目	711-2203
元町★	北20条東20丁目	781-5375
伏古本町	伏古3条3丁目	784-5534
丘珠	丘珠町183-2	781-4283
札苗	東苗穂7条2丁目	783-3608
苗穂東	苗穂町3丁目	742-4427
白石区		
白石	本通1丁目南	861-8270
東白石	本通13丁目南	861-9262
東札幌	東札幌2条4丁目	811-9355
菊水	菊水7条2丁目	811-9445
北白石	北郷2条3丁目	874-0293
北東白石	北郷3条12丁目	875-3077
白石東	本通18丁目南	862-0813
菊の里	菊水元町8条1丁目	871-2355

まちづくりセンターとは？

市内 87 か所にあるまちづくりセンターは、地域のまちづくり活動の支援や地域の各団体のネットワーク化の支援、地域のさまざまな情報の提供を行っています。

具体的には

- 地域の活動や助成金に係る相談
 - 各団体間の連携支援
 - 地域要望の集約
 - 市政情報の提供 など
- このほかにも
- 地域の情報発信
 - 住民票等の諸証明の取次ぎ交付（一部では即日交付を行っています。）

厚別区		
厚別中央	厚別中央 4 条 3 丁目	891-3907
厚別南	厚別南 1 丁目	891-1666
厚別西	厚別西 2 条 3 丁目	891-4555
もみじ台	もみじ台北 7 丁目	897-6121
青葉	青葉町 3 丁目	892-8177
厚別東	厚別東 4 条 4 丁目	897-2885
豊平区		
豊平	豊平 6 条 7 丁目	811-9435
美園	美園 6 条 5 丁目	811-4119
月寒★	月寒中央通 7 丁目	852-9288
平岸	平岸 2 条 7 丁目	811-9545
中の島	中の島 1 条 4 丁目	821-5841
西岡	西岡 4 条 5 丁目	854-0357
福住	福住 1 条 4 丁目	855-6615
東月寒	月寒東 3 条 17 丁目	853-9191
南平岸	平岸 2 条 14 丁目	814-1440
清田区		
北野	北野 4 条 2 丁目	883-0373
清田中央	清田 6 条 2 丁目	884-7187
平岡	平岡 7 条 3 丁目	883-7100
清田	清田 1 条 2 丁目	883-7600
里塚・美しが丘	里塚 2 条 5 丁目	884-1210
南区		
真駒内★	真駒内幸町 2 丁目	581-3025
石山★	石山 2 条 2 丁目	591-8734
簾舞★	簾舞 3 条 6 丁目	596-2059
藤野	藤野 2 条 7 丁目	591-7041
藻岩	川沿 8 条 2 丁目	571-6121
藻岩下★	南 34 条西 9 丁目	581-2001
澄川★	澄川 3 条 2 丁目	821-8585
芸術の森地区★	石山東 7 丁目	592-7009
定山溪	定山溪温泉東 4 丁目	598-2191
西区		
八軒	八軒 1 条西 1 丁目	611-2221
琴似二十四軒	琴似 2 条 7 丁目	621-2508
西町	西町南 9 丁目	661-2591
発寒北	発寒 12 条 4 丁目	661-6262
西野	西野 6 条 3 丁目	663-0360
山の手	山の手 3 条 7 丁目	613-1929
発寒	発寒 5 条 3 丁目	664-6411
八軒中央	八軒 6 条西 2 丁目	615-9588
手稲区		
手稲	手稲本町 3 条 1 丁目	681-2131
手稲鉄北	曙 7 条 3 丁目	684-0048
前田	前田 6 条 9 丁目	683-4422
新発寒	新発寒 5 条 4 丁目	684-5557
富丘西宮の沢	富丘 2 条 2 丁目	685-4745
稲穂金山	稲穂 3 条 5 丁目	684-4020
星置	星置 2 条 3 丁目	695-3222

6 町内会で活動するということ

この冊子の作成にあたってご協力いただいた各区の町内会長や役員の皆さまは、それぞれの地域で町内会活動に対して積極的に取り組んでいます。この章では、町内会についての想いや目指す町内会の姿など、「町内会で活動する」ということについて、ご紹介します。

町内会や地域において、会長や役員という立場で活動するにはさまざまな苦労や困難があると思いますが、そうした情報を共有することで、今後より一層の町内会活動の活性化につながることでしょう。

■対象者一覧（敬称略）

牧野 正昭

円山西町町内会 会長

五十嵐 秀子

幌北連合町内会 副会長兼女性部長、幌北第一町内会 副会長兼女性部長

本村 良一

元町連合町内会 会長、元町一区町内会 会長

中澤 迪也

白石地区連合町内会 会長、コープ野村南郷町内会 会長

松山 瑞穂

厚別中央町内会連合会 総務部長、下野幌町内会 会長

木戸 敏男

中の島地区町内会連合会 会長、中の島二区第1町内会 会長

大形 修三

里塚・美しが丘地区町内会連合会 会長、パシフィック美しが丘壱番街自治会 会長

村上 剛

川沿中央第五町内会 会長

河崎 快二

二十四軒連合町内会 会長

眞鍋 秀夫

夢トピア星置町内会連合会 会長

つながりの輪を広げて地域の方に関心をもってもらおう

経験のある人と新しい発想の人との協力がより良い町内会に

町内会の役員になるきっかけは、まず、区長（町内会内の区域の長）になってほしいという話が回ってきたことです。当時は現役で仕事をしていたのですが、妻の後押しがきっかけで区長になりました。1期務めたら今度は副会長になってほしいと頼まれ、1期だけのつもりで引き受けました。そして会長の改選で私が選ばれ、今年の4月で、会長になり7年になります。

同じ人が長く役員を務めているとマンネリ化が懸念されますが、役員は毎年半分ずつ入れ替わっていますので、方向性を間違わないように経験のある人がアドバイスをすることも必要だと思います。新しい人たちと経験のある人たちが協力することで、より良い町内会になると考えています。それに全てを把握し、一通りのことができるようになるには、最低でもかなりの時間がかかると思います。私も最初はわからないことばかりで、「会議」や「講演会」と名の付くものにはとにかく参加しました。自分が知らないことにはアドバイスもできないですからね。

人と人とのつながりの輪が広がるのがやりがい

アクションを起こして小さい輪が大きくなっていくと、同時に世代も幅広く広がっていく。そうやって人と人との繋がりが広がるのがやりがいになっています。

まずはとにかく自分で動こうということで、毎朝小学校のスクールゾーンを1時間歩いているんです。自分の町内会から大倉山小学校に通っている児童の顔は全部わかります。だから、どこかで子どもに会うと、保護者の方ともつながりができますので、そうやって輪が広がっていきます。

新しいことにトライしてプラスアルファの取組を

会長を務めさせていただくようになり、新しいことにトライしようと思いました。今までやっていたことを引き継いで行っていく方が無難だし楽なのですが、責任のある立場になった

からこそ今までとは違うものをプラスしていかなければと、見守り活動や災害対策など色々なことに取り組んでいます。

例えば、公園が災害時の一時避難場所に指定されていますが、小さい公園で、「これで大丈夫か」という思いがありました。そこで大きな駐車場がある施設と交渉し、一時避難場所として利用させてもらう許可を頂きました。

このように、活動の継続と共に、常に新しいものをプラスアルファするよう心がけています。

住民同士の接触を深めて見守り体制づくり

今後は見守り活動に力を入れて取り組んでいきたいと思っています。去年から見守りを必要としている高齢者の人数の把握と、見守り活動をしてくれるボランティアの募集をしています。新年度からはさらに踏み込んで取り組んでいきたいと考えています。

地域の見守りは、役員やボランティアだけで全てを見ることは出来ないの、近所の方に関心をもって見守ってもらうことを基本にしたいと考えています。そのためには、やはり普段から近所の人同士のかかわりが必要になります。他にもサークル活動参加のPRを今行っています。高齢者がサークルに参加することは、お互いを気にかけるきっかけとなり見守りに繋がると思っています。

会館を中心に誰もが集まって活動できる町内会を

連合町内会のうち、専用の会館を保有しているのはうちの町内会だけです。今はサークルや同好会などで会館を利用してはいますが、もっと皆さんに活用してほしいです。元気な方も体が不自由な方も幅広い世代の方が会館に集まって活動できる、それが私の理想の町内会です。



町内会活動で「地域ファミリー」をつくる

皆さんの応援で気がつけば10年

前任の連合町内会の女性部長が退任して、当時副部長だった私が女性部長に着任することになりました。最初は力不足でとても務まるとは思えなかったですし、不安でした。しかし、人手不足で皆さんが困っている時だったので、少しでもお役に立てればと引き受けました。就任1年目は特に大変で、辞めようかなと思うこともありました。しかし、皆さんの応援もあり、気が付いたら10年も続けております。

「自分そして地域のため」が元気の素

歳をとっても、行く場所や役割があるというのは本当にありがたいことです。そう考えるとプレッシャーもありますが、部長を務めさせてもらえることがありがたいと感じています。

いくつになっても理想を持ちながら、自分のため、そして誰かの役にも立てているのかなと思うと元気になります。色んな人にも巡り合うことができ、一生の財産と思える友達もできたことがよかったです。

町内会は良いところですよ。皆さんにも町内会活動を地域に出るきっかけとして利用してもらえればと思っています。

仲間づくりで地域の町内会への見方が変わってきた

就任前後で町内会に対する見方や想いは変わりませんが、地域のみなさんの町内会を見る目は変わってきたと感じています。多くの方が町内会活動で知り合って、仲間同士になって、率先して地域の活動に出てきてくれるようになっていきます。学生さんも多い地域で、若い人も積極的に参加してくれています。

サロンから地域ファミリー、町内会家族へ

私たちの町内ではサロン活動が活発です。町内会に加入すれば誰でも参加できるもので、近所の人が集まっておしゃべりする会は友達づくりの場として喜ばれています。こういう場があると、町内会役員以外にも町内会について知

ってもらい機会にもなります。

サロンを始めたきっかけは一人のお爺ちゃんが詩吟を歌いながら町内を歩いていたので、聞いてもらう場

づくりをしたことからでした。サロンが10年目を迎えたとき、100歳の会員の方のお誕生会をしようと、約50人が集ってお祝いしました。他人のお爺ちゃんだけど、地域ファミリー、町内会家族なんです。こういうことをしていかないと、地域の人たちが知り合えることは難しいと思います。

私は民生委員を兼務していて、毎月、ひとり暮らしの高齢者のお宅を訪問するのですが、「お元気ですか？どうですか？」とだけ聞いて回るのは何だか嫌だったんです。ところが、サロンのお手紙を持って「参加できますか？」って回ると自然に会話ができていいんです。大変ですが、毎月、大勢の方にサロンの手紙を書いて、一軒一軒配っています。

みんなが知り合って支え合うことが大事

町内の高齢者マンションは一人暮らしの方が多く、以前は顔を合わせても挨拶するぐらいの関係で、孤立などの心配もありました。しかし、サロンを始めてから、住人同士が知り合って関係が少し深まったと思います。更に、そのマンションの中で、若い人は困っている人を助けるというような関係もできてきました。このように、地域の方々が知り合いになっていくことが理想だと思います。地域の方がお互い支え合っているとか、気遣い合っているのを見ると嬉しくなります。これからは特にそういう関係にならなきゃいけないと思っています。



町内会は地域のオールラウンドプレイヤー

きっかけと後継者養成に向けて

長く務めていた銀行を定年になり、老後をゆっくり過ごそうと思っていた時に、会長を引き受けてほしいと頼まれ、もう11年になります。また、連合町内会の会長は昨年から引き受けました。

他にやれる人がいないからというのが一般的な言い訳ですが、自分自身が後継者を育てていないこともこれだけ長く会長を務めている原因だと思います。周りからもそろそろ後継者を養成するよう言われ、引き継いでいきたいと考えています。

涙がでるほど嬉しかった、「やりがい」

毎月第2土曜日に町内会のごみ拾い運動を実施しており、地域にある病院の職員も参加してくれています。そこで働いていた女性が退職の際に「ごみ拾いのことは忘れません」と楽しそうに言ってくれて、地域の活動が心に残ってくれたのかと思うと、涙が出るほど嬉しかったです。

やりすぎかもしれないけど

とにかくより良い町内を目指して

「私はあなたのように活動できない」と言われ、後継が出てこない。自分でもやり過ぎかなと思うこともありますが、やっぱり自分の町内会には責任を持たなければならないと思っています。ごみや除雪の問題など色んな問題がありますが、とにかく1番の町内会を目指して活動しています。

地域の現状を把握した取組

カラー写真を使用した町内会便りを私が作って、地域で月に2回ほど配布しています。町内会費だけ貰いに行っても、町内会加入の恩恵がよくわかっていない人も結構多いので、活動を見てもらおうように心掛けています。今では他の町内会からサンプルを送って欲しいと頼まれるようにもなりました。8月の子供花火大会、9月の町内会大運動会は、多数の参加者があり

圧巻です。

今後は高齢者対策が重要だと思います。75歳以上の後期高齢者が増えています。独居や夫婦のみの世帯が圧倒的に多いです。また、独



居老人の孤独死が一番心配です。各町内会に福祉のまち推進委員会をつくったり、町内会便りに「ご相談事はなんでも町内会長まで」と私の電話番号を載せたりと取り組んでいます。敬老の日には75歳以上の方の家庭を全戸訪問してお話を伺っています。

この他、若者や学生を活動に巻き込んでいくようにも努めています。イベント時に北海道大学の落語研究会を呼んだり、元町連合町内会と元町まちづくり協議会主催の「元町ふれあい祭り」には教育学部の学生に声を掛けたりして、学生がたくさん参加してくれています。町内会も人間社会のひとつの組織として活動するわけですし、学校も地域の中で育っていくものだと思うので、これは良い取組だと思います。

困り事は町内会が相談相手になる

町内会はその地域のオールラウンドプレイヤーみたいなものです。困り事は全部町内会で処理してあげるという姿勢を私は貫いています。そのため私の家の前を通りがかったお年寄りの相談事などで町内会では扱いかねる問題についても話を聞いたりします。みんな色々な悩みを持っていますからね。人のためになることは町内会に限らず、何でもやってあげたいのかなと思います。あまり干渉し過ぎてもだめですが、頼まれたらやらなければならない。これは町内会の基本だと思っています。

共助の意識が増えていくのが町内会の理想

できる限りやってみようという想いで町内会長に

13年前、次の町内会長のなり手がいなかったのが私が引き受けました。長い間、青少年育成委員会で会長をしていたので、町内会役員の中にも顔見知りがあり、新しく組織に加わる不安はありませんでした。4年後に連合町内会の総務部長を頼まれ、その後、連合町内会の会長にもなりました。誰もが会長になれるわけではないですし、できる限りやってみようと思い、引き受けました。

通学パトロール隊の先駆け

町内会の事業を企画して、うまく軌道に乗った時にはやりがいを感じます。

私たちの取組が先駆けとなって他の地域に広がった例として、通学パトロール隊があります。開始当時、青少年育成委員会、白石警察署地域安全活動推進委員でそれぞれ巡視を行っていました。町内会の交通安全部もこれに参加し、通学時にパトロール活動を行っています。

町内会への見方や想いの変化

私は定年までの13年間、白石高校に勤務していたのですが、町内会の初代会長から青少年育成委員会に入るよう頼まれたのをきっかけに、地区の社会福祉協議会の会長など、さまざまな役職を兼任してきました。

町内会では役員を頼んでも断られることが多いですが、自分の経験をもとに「ここを終の棲家にするなら、人のつながりは財産ですよ」と話しています。

加入促進と防災、福祉の強化を

いま1番力を入れて取り組んでいることは町内会の加入促進です。町内会加入促進委員会を組織して、具体的にはチラシの配布などを行いました。活動は3年スパンで考えており、2年が経過しました。1年目で加入290世帯増、2年目更に286世帯増と着実に成果は出ていま

す。

また、今後は、防災と社会福祉を2大テーマに取り組んでいきます。

まず防災に関しては、まちづくり

協議会の防災部会で、札幌に直下型地震が起こったことを想定し、研修会を実施しました。

社会福祉に関しては、白石地区の近くで孤立死が起こったことをきっかけに、高齢化・単身化の急速な流れを意識し、町内会でも手を打たなければと強く感じました。具体的には単位町内会ごとに民生委員と町内会役員が協力し、見守り活動を行っています。これを更に強化して地域の支え合い体制を構築することが今後の課題です。

会長が考える町内会の在るべき姿

自助・共助・公助に関していうと、理想とは共助の部分がどうあるべきかという所だと思います。行政が行えることには限度があり、共助が1番のポイントです。それがそのまま町内会活動になります。現在のような高齢社会に対応するためには、地域の力、つまり共助の組織化が重要だと考えています。

それぞれ色々な問題を抱え自分の生活がある中で、個人が共助のためにどれだけエネルギーを出せるかとなると、難しいことです。金銭としての報酬はないので、別な形でメリットをいかに感じてもらえるかが重要になりますが、実際にやってみることで自分なりの充実感を感じてもらえたらと思っています。そういった人が増えていくことが1つの町内会の理想だと思っています。



中澤様は平成26年5月にご逝去されました。
故人のご功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。

老いても楽しく暮らせるまちづくりを目指して

退職時に地域への貢献の想いから役員に

私が65歳で仕事を退職した時に、当時の町内会長から役員になってほしいと頼まれました。この地域に住んで20数年にもなるし、少しは地域に貢献してお返ししようという気持ちで引き受けたことが役員になるきっかけです。もともと音楽が趣味で、若い頃から音楽鑑賞協会のボランティアのようなものをずっと続けていました。そのせいか、町内会活動に対して違和感はなかったです。

議論を重ねることで意見が一致していく、それがやりがいにもなっている

町内会は、さまざまな職業の人や生活水準の違う人など、とても幅広い人々で構成される組織です。さまざまな人がいて、さまざまな考えがある中で、その地域を住みやすくしようとか、住んだからには楽しくやっつけようとか、その共通の目標だけで活動しています。他の組織のように規則をきちんと定めるわけにはいかないし、一致する所だけ行動していこうというのが町内会の主旨だと思います。

最初は意見が食い違っていても、議論を重ねていけば、だんだんと一致していきます。このようにみんなが共有できるよう議論をしっかりと踏んでいくということが、やりがいに繋がっていると思います。

考え方の幅が広がった

サラリーマン時代はずっと社宅の町内会に加入していました。町内会がどんな活動をしているのかある程度知っていたため、役員になってからも町内会への見方や想いはほとんど変わっていませんね。

ただ、色々な分野、放送局にいた自分とは全く違う世界の人たちとお付き合いで、色々な話が聞けて、考え方の幅が広がったというのはありますね。

力をいれていること

福祉と防災時の支えあいの必要性を強く感じていて、厚別中央町内会連合会は平成25年

から防災・福祉支えあい活動を本格的に始めました。

「支えあい活動を始めますよ」という回覧を回し、「日常の見守りや災害時の援助の必要な



方いませんか”“要援護者の支援に協力してくれませんか”というチラシを全家庭に配り、大きな反響がありました。

手を上げてくれた家庭、把握している高齢者家庭に、町内会役員と福祉のまち推進員、民生委員、老人クラブが協力して訪問し、個人カードを作成してパソコンにデータ化し、「防災・福祉支えあいマップ」を作ります。各家庭を訪問、マップ化するには1年かかると思います。「おたがいさま」の気持ちで“こんにちは”のあいさつからはじめています。

普段の生活での何気ないつながりがある地域にしたい

老いても楽しく暮らせるまちが私の理想です。住み慣れたまちで、最期を迎えられるような地域をつくりたいと思っています。

例えば子どもの登下校の時間帯にごみ出し等をして挨拶を交わしていれば、町内会活動とかボランティア活動などと意識せず、普段の生活の中で、不審者がいたときに助けを求められますよね。みんなが意識しなくても自然に見守りなどができる。「向こう三軒両隣」っていうのがありましたけど、そういうような隣り近所が挨拶していける関係になればいいというのは理想ですよ。

同じ地域に住んでいる人たちが仲良くなって、そこでみんなで何かをやろうと起こした行動がまちづくりになるのではないかと思います。それを意識せず自然体でできるようになれば、最高かなと感じています。

参加しやすい町内会の空気づくりと気持ちのコミュニケーション

お世話になったお返しから役員に

父が亡くなった時、町内会の方々にとってもお世話になったのです。それで母に「こんなにお世話になったのだから町内のお手伝いをしなさい。」と言われ、少しだけ役員をやってみようかと思ったのがきっかけです。

そうしたら、4年後、前会長が高齢になり、町内会の方々から後を引き継いでほしいと頼まれました。当時、私は家族を病院に連れて行くことが多く、時間的に余裕がなかったのですが、断りきれず、会長になり、今ではもう10年目です。

いろいろな人と交流できるのが楽しさ

大変なことも多いですが、人との交流が広がる場所はやりがいの一つですね。「向こう三軒両隣」という言葉が僕は好きなんです。今ではそれ以上の向こう五軒両隣くらいの感じになりました。

私が知らなくても、相手は私を知っているから、向こうから話しかけてくれて色々な話ができますし、そういうことが楽しさになっています。

地域のさまざまな団体との連携

町内会連合会長になり、全般的なことを見ている、やはり防災と高齢者対策、この2つの取組は必要だと感じました。

町内会活動は、住民の安心・安全が基本なので、現在防火・防災関係に注力しています。昨年は地域住民と豊平消防署が防火・防災活動を推進する協定を結びました。

高齢者の見守りについては、町連・福祉のまち推進センター・民生委員児童委員協議会で、それぞれ行っています。今後は単位町内会も含め組織づくりをして全員で見守りをしていこうとも考えています。

その他、PTAとの連携を強めていきたいと思っています。現在、小・中学校とは良好な関

係を築いており、公園や街の清掃、アイスキャンドルづくりなどに、学校側が積極的に参加してくれます。町内会では通学

時間にパトロールをしたり、学校の催しによく参加しています。町内会活動を行う際、人手が足りない時だけでも、PTAの方々の力をお借りできればと考えています。他にも青少年育成や交通安全などやりたいことはたくさんありますが、中途半端にならないようまずは防災関係と高齢者対策に力を入れます。

誰でも気軽に参加しやすい町内会に

中の島は単身向けの賃貸住宅がほとんどで、住民は働いている20～30代の方が多いです。だから、学校や仕事で忙しいから役員にはなってもらえない。一方で、町内会に若い人が入ると、色々なイベントの設営とかに集まって、だんだん仲良くなって楽しくやっているんですよ。心のつながりっていうのかな、そういうのがいつの間にかできているように見えます。

だから、誰でも気楽に参加できるようなイベント・催しがある町内会が理想です。今はそれを模索中です。

運動会や地区のお祭りなど、色々なことをやっていますが、どうやったらもっとみなさんが楽しみに集まってくれるのかということも、いつも考えています。そういうイベントがあれば、役員のなり手も出てきて運営もスムーズになると思います。年代など関係なくみんなが集う機会がしっかりあれば、そこを目指して、みなさんと協力していけると思うのです。



防災活動でコミュニティづくりとリーダー育成に向けて

現役のときは町内会に全く参加していなかった

罪滅ぼしと言ったらおかしいけど、商社の営業マンとして働いていた頃は仕事が忙しく、町内会活動どころか、子どもの学校行事にも参加してあげられなかったんです。定年退職後、マンションに引っ越してきて、誘われたことがきっかけで、役員くらいならいいかと始めました。そして、役員を続けるうちに、いつの間にか会長になっていました。

日々やることのあるのが原動力

朝起きた時に、1日のスケジュールがいっぱいというのがやりがいです。

ぼやぼやしてられませんし、やっぱり動いていた方がいいんですよ。

町内会の子どもに色々してあげたい

昔は自分の子どもの運動会や学級参観には一切参加できませんでした。それが今では、学校に呼ばれて、運動会に行かなきゃいけない。自分の子どもにできなかった分、今は町内会の子どもたちにしてあげようという想いは強いんです。また、地域の子どものとして差別なく受け入れられるし、差別なく怒れますよね。

体験を通じた地域の防災力強化

今、防災に特に力を入れています。災害時に一番困るのは電気と水道が止まることです。マンションの地下にある貯水タンクは、電気が止まると中から水を汲み出すことができません。そこで私たちは、自動発電機と水中ポンプを買い、災害時に水を汲み出せるように備えました。

毎年、消火訓練や避難訓練を行っていますが、今後は、実際に発電機とポンプで汲み上げた水を使って炊き出しの訓練を予定しています。

また、まちづくりセンターで、一般の人を集めて宿泊型防災訓練もやります。電気も水道も使わず、何も準備していないところから始めて、

実際の災害時に近い状況で体験する。こういった訓練を繰り返し経験しておくことで、災害時にまず何をすべきかという判断がつきやすくなると考えています。



もっと多くの人が参加する町内会に

理想は若い人を含めもっと多くの人が町内会活動に参加して、町内会が活性化されることです。

役員は無償で活動していますが、仕事等で忙しい方々に同様の活動を求めるのは難しいことです。そこで私はボランティアポイントというものを作ったらどうかと考えています。ボランティアや地域の活動の手伝いをする事でポイントをもらって、コーヒー券と交換できたり、何か恩恵を受けられたりする仕組みです。

私たちの町内会ではお祭りなどのイベントに札幌国際大学の学生が手伝いに来てくれています。彼らにメリットがあるよう大学側に授業の一環としてくれるよう働きかけたりもしています。

活動の課題は人材不足で、その解決の糸口は防災にあると考えています。防災活動を経験することで組織のコミュニケーションのトレーニングになり、防災の体験学習を通じてリーダー養成を図ることもなるのです。それから、たくさんのイベントを実施し、そこで色々な人と接点を持って仲間が出来て、今度はお前がリーダーになれよって言えるようになる。それが私の理想です。

共通の認識を通してボトムアップ型町内会を目指して

地域とのかかわりへの気づきと班長がきっかけ

現役残り3年となった57歳に10年間の単身赴任から戻ると、自分が地域のことを全く知らないことに気が付き、地域との交流がないことにさみしさを感じたんです。

その時、ちょうど町内会の班長が回ってきたのが最初のきっかけでした。もともと福祉に興味があったこともあり、翌年に福祉部長を頼まれました。初めはまだ働いていたので会議の参加も難しかったのを覚えています。

その後、前会長が80歳近くになったときに、後任を頼まれました。最初は断っていたんですが、気が小さいせいか、結果的に引き受けて、もう6年目です。

深刻にならず明るく！がモットー

まちづくりセンターの所長をはじめ、色々な方に出会い、今までと全く違う人間関係を築くことができました。働いていた頃とはまた違った勉強を毎日できて、時には楽しくてしょうがないと思えることもあります。嫌々やっているという方もいると思いますが、そんなことばかりは言っていられませので、「あまり深刻にならず、とにかく明るくいこう。」と町内会役員にはよく言っています。

共通の認識を持つことで地域自らの動きに

以前は町内会の運営に不透明な部分があって、客観視した場合に町内会活動の恩恵に対して疑問に思う部分があったんです。地域のみなさんに協力してもらうためには、情報をしっかり共有し、共通の理解と認識の中で、活動してもらわなければいけないと思っています。

共通の認識を持つことを念頭に取り組んでいるので、私や連合町内会の動きと地域の方たちの動きがお互いにわかっていると感じています。そういう意味では本当に協力して頂いて有り難く思います。

今後は地域の防災体制を構築したい

高齢者や障がいのある方、子どもを含めて関

係機関と連携した地域の防災体制を構築したいという想いを持っています。それもあって今後は防災に力を入れていきたいです。地域では防災部長を中心に組織はできています。役割分担をしてまずはDIG（地図を用いて地域で大きな災害が発生する事態を想定した災害図上訓練）を進めていこうと考えています。

あとは、やはり組織としての女性の活用です。町内の女性部長を子育て中の方にやって欲しいと思い、30代の方をお願いしています。仕事もされているので、事務仕事は私がサポートしてなんとかやってもらっています。お母さん同士で連絡が付きやすいので、彼女が就任してからは、よりいっそうまとまるようになりました。また、七夕祭りもするようになり、毎年結構子どもが集まっています。

みんなで作っていく町内会に

町内会が地域の方々に何かするのではなく、地域の方々が町内会という組織を使って、このまちをどうしていきたいのか、役員だけでなく、地域のみなさんにそういう気持ちで地域への関心と責任を持ってほしいと思っています。個々がまちのことに関心を持ち、問題意識を持つことによって、さまざまな意見が生まれます。それを具体化するのが町内会なのです。

しかし、役員構成や年齢層から見ても発想には限界があります。老若男女たくさんの方の色々な発想が出てきて、それらが絡み合うことが活性化に繋がるとと思っています。

そのためにも町内会の敷居を低くして、皆さんが気軽に何でも言えて、交流できるということが大事だと考えています。



地域の人を楽しんでいることが町内会の原点

後任を頼まれて会長に

市役所定年後、平成13年に町内会会長になりました。翌年、連合町内会副会長をやってほしいと頼まれて着任。当時の連合町内会会長から跡を継いでほしいと頼まれ、更に翌年の平成15年に連合町内会会長になり現在に至ります。

「地域の人を楽しんでいる姿」が原点

盆踊り大会など大きなイベントを実施する際に、まちのみなさんが一生懸命になってくださって盛況のうちに終わった時には、やりがいを感じます。やはり地域の人が集って楽しんでいる様子を見ると、これが町内会活動の原点だなと思います。

社会情勢の変化に合わせた活動の変化を

会長になってから、町内会についての見方は基本的には変わらないのですが、ただ、少子高齢化・核家族化・所帯の単身化という流れが非常に急速なので、必要性の度合いが昔とは変わってきていると思います。若い人が少なくなり、お年寄りが増えているという大きな社会現象があるので、ここに着目し町内会活動のウェイトを考えていかなければと思うようになりました。

地域のお年寄りへのきめ細かい対応

琴似・二十四軒地区は他の地区に比べ一人住まいのお年寄りが非常に多いという特徴があります。そのため、福祉関係の活動に今一番力を入れています。孤立死・お年寄りを狙った詐欺などが社会問題にもなっていますし、特にこの地区はそういうことをメインにしながら、きめ細かくお年寄りの方と接していかなければと思っています。具体的には福祉マップづくりを行っています。見守りや訪問・災害時支援のために、一人住まいや体の不自由なお年寄りの世帯を示した地図です。

また、年2回配布している広報誌を将来的

に増やしていこうとしています。連合・単位町内会の活動状況等を発信し、できるだけ地域の人に顔の見える活動にしたいと心掛けています。町内会に未加入で関心がない方にも、どういう活動を行っているのか内容だけでもわかってもらえればとも思っています。



自分の地域への理解と愛着を深めてもらいたい

抽象的ですけど、できるだけ地域の人がお互いに支え合って、思いやりの心が通い合うような、そのような安全で安心できるまちづくりをしたい。町内会役員だけでなく、地域の人にも積極的に活動に参加してもらえるような町内会が理想です。

現状の活動では年配の方の参加がほとんどです。若いうちから関心を持って積極的にボランティア活動などに参加してほしいですね。

そのためにも、幅広い世代の方が活動できるような雰囲気づくりと、みなさんにもそういう意識をもってもらうことが必要だと思います。例えばボランティアについては小中学校から意識づけをしておくことで、大人になった時に子どもの頃の経験をよりどころに積極的に活動してもらえと思っています。それから、まずは地域のみなさんが自分の地域への理解を深めることで愛着が生まれ、その地域に居づき、より良い環境のもと暮らしていこうという意識が生まれ、それが積極的な活動に繋がっていくのではないかと考えて取り組んでいます。

自由な意見の場を作り町内会の活性化

会長就任のきっかけ、続けている理由

退職後の平成12年に62歳で町内会役員になりました。その後、かねてから後任を頼まれていたこともあり、平成16年に町内会連合会の会長に着任し、現在に至ります。

仕事で組織管理・人事管理などを経験していたためか、町内会の仕事も苦痛には感じていませんし、やりがいにつながっているかもしれません。

参加した人の「楽しかった」がやりがい

夏のイベントとして納涼盆踊りを毎年行っているのですが、このイベントは、1つの町内会につき、1つ出店を出すことになっています。

子どもが自分のお小遣いで十分食べたり、遊んだりできる金額設定にしてくださいとだけ伝えますが、あとはどのような出店を出すとか、お店づくりなど全て各町内会に任せています。

最初は嫌がる人もいたのですが、やっていくうちに、最後には「楽しかった」と言ってもらえて、その印象が非常に強く残っています。

一個人ではなく町内会の価値観で活動 後任探しも会長の大事な仕事

会長になってから、一定の期間・年齢に達したら次の人に引継ぐことも必要だと感じるようになりました。

年齢を重ねたり長く同じ役職を務めたりすると、自分の価値観に固執してしまい一般的な常識からずれてしまうこともあります。あくまで一個人の価値観ではなく町内会・町内会連合会の価値観で物事を律するというのが基本だと思っています。

以前に役員約半数を入れ替えたことがありますが、新しい人が加わったことで、固定観念にとらわれずに「こういうことやりたい」など意見が出てきて、従来と違った新しい取組に繋がりました。

そのようなことから、私もそろそろ後任を探さなくてはと思っています。これも会長の重要な仕事の1つだと考えています。

地域の「見守り」に力を入れたい

今、最も難しいと感じているのは地域の見守りについてです。

私たちの町内会連合会の中には、シルバーサポーターと



という制度をつくっている町内会もあります。町内をいくつかのエリアに分けて何人かで見守り活動を行うものですが、積極的に口出ししていくわけではなくて「何か変わったことがあったらいつでも連絡下さい。何でも相談に乗ります。」という姿勢を心がけています。

一方で、個人情報の取り扱いの問題もあり、なかなか手を出せずにいる町内会もあることから、見守りを行いやすいような仕組みが必要だと思います。最近では隣の人について何も知らないということが多いですが、やはり向こう三軒両隣ということは大切にしていきたいです。

いろんな人が自由に話せる町内会が理想

私はブレインストーミングという方法を大事にしていて、町内会にも色々な人が自由にものを言える場や機会があるということが理想だと思っています。

堅くならないような場で、色々な人が思ったことや考えを自由に話すことによって、良いアイデアが生まれます。このような場があれば、仕事があつて町内会役員はできないという若い方の意見も吸い上げることができると思っています。